

平成22年度

上富良野町教育委員会点検・評価報告書

平成23年9月

上 富 良 野 町 教 育 委 員 会

目 次

I	教育委員会点検・評価の概要	1
II	教育委員会の活動状況	3
	(1) 教育委員会の活動	3
	(2) 教育委員会議	6
	(3) 学校訪問、各種行事、研修会等への参加	11
	(4) 教育委員会議等の評価	12
III	「教育行政執行方針」に基づく点検・評価	13
	(1) 学校教育班関係	13
	(2) 社会教育班関係	33
IV	教育行政評価委員の意見	63
	資料1 上富良野町教育委員会教育行政評価委員会要綱	65
	資料2 上富良野町教育委員会教育行政評価委員会委員の構成	66
	資料3 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	67
	資料4 平成22年度教育行政執行方針	68

I 教育委員会点検・評価報告の概要

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の一部改正により、平成 20 年 4 月から、教育委員会の責任体制の明確化を図るため、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を公表するものです。

2 目的

地教行法第 27 条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価し、効果的な教育行政の推進と行政評価の透明性を図り、町民への説明責任を果たすことを目的とします。

3 点検・評価の内容

平成 22 年第 1 回定例町議会において、「平成 22 年度教育行政執行方針」に示した事業の実績をまとめ、それぞれの目標に照らし合わせた成果を基に内部評価を行い、学識経験者の識見を活用した教育行政評価委員会からの意見を聴取し、今後の課題や対応策をまとめ、教育委員会の点検・評価報告書を作成し、議会に提出・公開し、町民に対して公表します。

4 議会への報告

議会への報告については、「上富良野町教育委員会点検・評価報告書」として、議会に提出し、その後に公表します。

5 町民への公表

町民への公表に関しては、議会に提出後に町役場の情報コーナーに「上富良野町教育委員会点検・評価報告書」を置き、閲覧できるようにします。

6 評価の手法

① 評価にあたっての着眼点

- ・教育委員会の活動状況について
- ・平成 22 年度教育行政執行方針に示した事務事業について

② 評価対象事業

平成 22 年度に実施した事業の内、教育委員会が所管する 48 の事業を対象としました。

③ 評価方法

教育行政点検評価表により、「事業名（評価項目）」・「細事業名（細項目）」・「事業の目的」・「推進目標」・「事業の概要」・「事業年度」・「事業費」・「検証内容（必要

性・有効性・費用対効果・方向性)」「評価(達成度・効果度)」「今後の課題」「改善策」を明らかにし、必要性・有効性・効果性などを各分野別において評価を行い、これにより、問題点を明らかにし、課題や具体的な改善内容を見出し、今後の方向性を検討するとともに、教育委員会が目指す方針に沿って教育行政が執行されているかの達成度・効果度に着目して総合評価を行いました。

④ 評価結果(事務事業評価)

平成22年度の点検・評価の結果について、下記の評価基準A～Dの4段階で集計を行いました。

第1表 行政評価(事務事業評価 達成度)

	A	B	C	D
件数	19	28	1	
構成比(%)	39.6	58.3	2.1	

(A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する)

第2表 行政評価(事務事業評価 効果度)

	A	B	C	D
件数	32	16		
構成比(%)	66.7	33.3		

(A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する)

第3表 総合評価

	A	B	C	D
件数	24	24		
構成比(%)	50.0	50.0		

(A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止)

II 教育委員会の活動状況

平成22年度の教育委員会の活動について「教育委員会議」「学校訪問」「研修」などの項目に分け、教育委員会による点検を行いました。

(1) 教育委員会の活動

教育委員会議については、毎月1回を原則に開催し、必要に応じて開催しました。また、教育委員会議を開催する都度に協議会を開催し、教育に関する様々な案件について協議を行いました。教育委員会議については、開催予定について告示し、会議の内容等については役場情報コーナーに提示するとともにホームページにも掲載しています。

以下、平成22年度の主な活動を示し、それぞれの活動内容について報告します。

平成22年度教育委員会活動一覧

月 日 (曜日)	活 動 内 容
4月 2日 (金)	平成22年度上富良野町教職員着任式
4月 6日 (火)	町内小中学校入学式
4月 8日 (木)	道立上富良野高等学校入学式、高田幼稚園入園式
4月19日 (月)	平成22年第4回教育委員会議
4月22日 (木)	道立上富良野高等学校教育振興会総会
4月28日 (水)	上川管内教育委員会連合会総会・委員研修会
5月28日 (金)	平成22年第5回教育委員会議
5月22日 (土)	上富良野小学校運動会
5月29日 (土)	上富良野中学校体育大会
6月 5日 (土)	東中小・中学校運動会
	上富良野西小学校運動会
6月 8日 (火)	学校経営訪問指導 (上中、上小、西小)
6月 9日 (水)	学校経営訪問指導 (東中中、東中小)
6月12日 (土)	江幌小学校運動会
6月15・16日 (火・水)	町定例町議会
6月23日 (水)	平成22年第6回教育委員会議
7月 6日 (火)	尾岸孝雄氏の旭日双光賞受賞を祝う会
7月 8日 (木)	第47回北海道市町村教育委員研修会
7月22日 (木)	三重県津市立安東小学校表敬訪問
7月24日 (土)	津市副市長一行来町 歓迎会
7月27日 (火)	平成22年第7回教育委員会議
7月30日 (金)	友好都市提携25周年記念事業・青少年国際交流事業結団式
8月23日 (月)	平成22年第8回教育委員会議
8月25日 (水)	平成22年度なかよしサミット

8月26日(木)	教育行政評価委員会
9月5日(日)	第55回北海道吹奏楽コンクール(上中吹奏楽部)
9月14・15日(火・水)	町定例町議会
9月27日(月)	平成22年第9回教育委員会議
10月7日(木)	平成22年第10回教育委員会議
10月18日(月)	学校訪問(上富良野西小・江幌小・東中小・東中中)
10月19日(火)	学校訪問(上富良野小・上富良野中)
10月27日(水)	北海道町村教育委員会連合会教育長部会研修会
10月28日(木)	平成22年第11回教育委員会議
10月29日(金)	札幌上富良野会総会
11月3日(水)	町表彰式及び町総合文化祭
11月6日(土)	上富良野西小学校チャレンジ博覧会
11月11・12日(木・金)	上川管内教育委員会連合会第2回委員研修会
11月20日(土)	開校100周年記念 江幌小学校学芸会
11月21日(日)	東中小学校開校110周年を祝う会
11月24日(水)	平成22年第12回教育委員会議
11月24日(水)	北海道文化財保護功労者表彰受賞祝賀会(郷土をさぐる会)
12月14・15日(火・水)	町定例町議会
12月17~20日(金~月)	教育委員研修旅行(兼上中陸上競技部全国大会応援) 山口県
12月22日(水)	上富良野高校振興会第2回役員会
12月27日(月)	平成22年第13回教育委員会議
1月5日(水)	町民新年交礼会
1月9日(日)	成人式
1月31日(月)	平成23年第1回教育委員会議
1月31日(月)	臨時町議会
2月15日(火)	平成22年度上富良野町教育推進会議
2月17日(木)	上川南部教育委員会教育委員研修会
2月18日(金)	名誉町民称号授与式
2月20日(日)	江幌小学校開校100周年記念式典・祝賀会
2月21日(月)	平成23年第2回教育委員会議
2月28日(月)	町教育賞・教育奨励賞表彰式(上高)
3月1日(月)	道立上富良野高等学校卒業式
	町教育賞・教育奨励賞表彰式(江幌小)
3月3日(木)	町教育賞・教育奨励賞表彰式(高田幼稚園)
3月4日(金)	いしずえ大学卒業式
3月7日(月) ~3月23日(水)	町定例町議会出席(7・8・14・15・23)
3月9日(水)	町教育賞・教育奨励賞表彰式(西小)
	町教育賞・教育奨励賞表彰式(東中中)

3月10日(木)	町教育賞・教育奨励賞表彰式(上小)
	町教育賞・教育奨励賞表彰式(上中)
	東中中学校卒業式
3月11日(金)	上富良野中学校卒業式
3月14日(水)	町教育賞・教育奨励賞表彰式(東中小)
3月15日(火)	高田幼稚園卒園式
3月18日(金)	各小学校卒業式
3月29日(火)	平成22年度上富良野町教職員離任式出席
	平成23年第3回教育委員会議

(2) 教育委員会議

次に掲げる事項は上富良野町教育委員会事務委任規則（昭和48年3月19日教育委員会規則第1号）により、教育委員会議において議決が必要な事項で、それ以外の権限に属する事務は教育長に委任されている。

- ① 学校教育又は社会教育に関する一般方針を定めること。
- ② 学校、公民館、図書館、郷土館、その他教育機関の設置及び廃止に関すること。
- ③ 1件100万円を超える教育財産の取得を申し出ること。
- ④ 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- ⑤ 道費負担教職員の職務の一般方針を定める及び懲戒を行うこと。
- ⑥ 前2号に定めるもののほか、人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
- ⑦ 教育長、教育振興課長、主幹、施設長、指導主事、社会教育主事及びその他教育機関の長の任免を行うこと。
- ⑧ 学校、その他教育機関の敷地の選定及び変更に関すること。
- ⑨ 1件1,000万円以上の工事の計画を策定すること。
- ⑩ 条例、規則及び規定の制定、改廃に関すること。
- ⑪ 条例又は規則に定める委員の委嘱に関すること。
- ⑫ 教育費予算、その他議会の議決を経るべき議案について、町長に意見を申し出ること。
- ⑬ 校長、教員、その他教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- ⑭ 文化財の指定及び解除に関すること。
- ⑮ 通学区域の設定及び変更に関すること。
- ⑯ 児童生徒の出席停止命令の手続きに関すること
- ⑰ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること
- ⑱ その他委員会において必要と認めたこと。

教育委員会議の開催状況と議案

会議名	開催日	議 案 等
平成22年第4回教育委員会	4月19日(月)	議事案件 1 上富良野町教育委員会事務局処務規程の一部改正について 2 上富良野町体育指導委員の委嘱について 3 上富良野町文化財保護委員の委嘱について 4 上富良野町放課後子どもプラン事業運営協議会委員の委嘱について 5 上富良野町学校評議員の委嘱について 6 上富良野町社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について 7 上富良野町公民館分館長及び分館主事の任命について 8 上富良野町就学指導委員会委員の任命について 9 平成22年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について 10 平成22年度全国学力・学習状況等調査の実施について

		<p>11 平成22年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査の実施について 報告案件</p> <p>1 工事等の発注状況について</p>
平成22年 第5回 教育委員会	5月28日(金)	<p>議事案件</p> <p>1 上富良野町学校管理規則の一部改正について</p> <p>2 平成22年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について</p> <p>3 平成22年度上富良野町一般会計(教育費)の補正予算について 報告案件</p> <p>1 町立小中学校教職員の人事等について</p>
平成22年 第6回 教育委員会	6月23日(水)	<p>議事案件</p> <p>1 平成22年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について 報告案件</p> <p>1 工事等の発注について</p> <p>2 町立小中学校教職員の平成22年度6月期における勤勉手当の給与決定手続きについて</p> <p>3 町立小中学校教職員の人事等について</p>
平成22年 第7回 教育委員会	7月27日(火)	<p>議事案件</p> <p>1 上富良野町教育委員会表彰規則の一部改正について</p> <p>2 平成22年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について</p> <p>3 平成23年度から使用する小学校教科用図書の採択について 報告案件</p> <p>1 工事等の発注について</p> <p>2 平成22年度上富良野町一般会計(教育費)の補正予算専決処分について</p>
平成22年 第8回 教育委員会	8月23日(月)	<p>議事案件</p> <p>1 平成22年度上富良野町一般会計(教育費)の補正予算について</p> <p>2 平成21年度上富良野町教育委員会点検・評価報告について 報告案件</p> <p>1 工事の発注状況について</p>
平成22年 第9回 教育委員会	9月27日(月)	<p>議事案件</p> <p>1 平成22年度上富良野町教育委員会表彰受賞者の決定について</p> <p>2 平成22年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について 報告案件</p> <p>1 上富良野町教育委員会委員の任命について</p> <p>2 工事等の発注状況について</p> <p>3 町立小中学校教職員の人事等について</p>
平成22年 第10回 教育委員会	10月7日(木)	<p>選任案件</p> <p>1 上富良野町教育委員会教育委員長及び委員長職務代理者の選任について</p> <p>報告案件</p> <p>1 町立小中学校教職員の人事等について</p>

		<p>議事案件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 町立学校職員の処分の内申について 2 町立学校職員の処分の内申について 3 上富良野町社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について
平成 22 年 第 11 回 教育委員会	10 月 28 日(木)	<p>議事案件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成 22 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について
平成 22 年 第 12 回 教育委員会	11 月 24 日(水)	<p>議事案件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 22 年度上富良野町一般会計（教育費）補正予算について 2 平成 22 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について <p>報告案件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 町立小中学校教職員の平成 22 年 12 月期における勤勉手当の給与決定手続きについて
平成 22 年 第 13 回 教育委員会	12 月 27 日(月)	<p>報告案件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 上富良野高等学校教育振興事業補助金交付要綱の全部改正について
平成 23 年 第 1 回 教育委員会	1 月 31 日(月)	<p>議事案件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 上富良野町放課後クラブの規則の一部改正について 2 上富良野町放課後子どもプラン事業運営協議会の設置に関する規則の一部改正について <p>報告案件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 町立小中学校教職員の人事等について
平成 23 年 第 2 回 教育委員会	2 月 21 日(月)	<p>議事案件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成 22 年度上富良野町一般会計（教育費）補正予算について 2 平成 23 年度上富良野町教育行政執行方針（案）について 3 平成 23 年度上富良野町一般会計（教育費）予算について 4 平成 22 年度上富良野町教育賞及び教育奨励賞受賞者の決定について 5 上富良野町児童生徒教育振興基金条例施行規則の一部改正について
平成 23 年 第 3 回 教育委員会	3 月 29 日(火)	<p>議事案件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 町立小中学校教職員の人事異動の内申について 2 上富良野町教育委員会事務局職員の人事発令について 3 上富良野町スポーツ振興助成事業取扱い要綱の一部改正について 4 上富良野町教育委員会事務局等組織規則の一部改正について <p>報告案件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 町立小中学校教職員の人事等について 2 上富良野町立上富良野小学校建設検討委員会設置要綱の制定について

教育委員会協議会開催状況等

開催日	協議事項等
4月19日(月)	<ol style="list-style-type: none"> 1 上富良野高等学校の入学状況について 2 第6回青少年国際交流事業について 3 社会教育事業計画について 4 その他
5月28日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育事業計画について(5月～8月) 2 平成22年度放課後子どもプラン事業登録状況について 3 上富良野町立小中学校の耐震診断結果の公表について 4 その他
6月23日(水)	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成22年度放課後子どもプラン事業登録状況について 2 その他
7月27日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1 7・8月 社会教育事業行事日程について 2 平成21年度上富良野町教育委員会点検・評価報告について 3 その他
8月23日(月)	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成22年度社会教育行事の日程について 2 平成22年度町の表彰候補者推薦について 3 平成22年度教育委員学校訪問の日程について 4 その他
9月27日(月)	<ol style="list-style-type: none"> 1 第47回 上富良野町総合文化祭事業計画について 2 上富良野町教育委員会表彰基準の見直し(案)について 3 その他
10月 7日(木)	<ol style="list-style-type: none"> 1 清富多世代交流センターについて 2 その他
10月28日(木)	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成22年度社会教育事業計画について 2 第47回上富良野町総合文化祭について 3 平成22年度上川管内教育委員会連合会第2回委員研修会について 4 その他
11月24日(水)	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成22年度全国学力テストの結果からの報告(案) 2 その他
12月27日(月)	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成22年度予算(教育費)について 2 全国学力テストのまとめの報告 「平成22年度全国学力学習状況調査結果の分析まとめ」 3 2をもとにした各校の学力向上プラン例 「東中小学校の学力プラン」 4 耐震診断の結果について(東中小学校・東中中学校) 5 その他

1月31日(月)	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成22年度上富良野町各校の学力向上プランまとめについて 2 平成23年度全国学力・学習状況調査への協力及び希望利用について 3 新学習指導要領に基づく平成23年度小学校指導要録の取り扱いについて 4 平成22年度上富良野町教育推進会議の実施について 5 平成22年度上富良野町児童生徒表彰に係る推薦書の提出について 6 その他
2月21日(月)	<ol style="list-style-type: none"> 1 町内各小中学校等卒業式の日程について 2 その他
3月29日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1 町内各小中学校等入学式の日程について 2 慶弔費に関する教育長交際費支出基準の改正について 3 平成23年度社会教育事業計画について 4 その他

(3) 学校訪問、各種行事、研修会等への参加

月	行 事 等	開催場所	備考
4	平成 22 年度上富良野町教職員着任式 町内小中学校等入学式 上富良野高等学校教育振興会第 1 回役員会・総会 上川管内教育委員会連合会総会・委員研修会	社教センター 各小中学校等 上高 旭川市	
5	上小運動会、上中体育大会	各学校	
6	東中小・中、西小、江幌小運動会 指導監学校経営訪問（上中、上小、西小、東中中、東中小） 定例町議会	各学校 各学校（江幌小を除く） 役 場	
7	第 47 回北海道教育委員研修会 尾岸孝雄氏の旭日双光賞受賞を祝う会	札幌市 プラザトミヤマ	
8	平成 22 年度なかよしサミット	社教センター	
9	定例町議会	役 場	
10	札幌上富良野会総会 教育委員学校訪問{西小、江幌小（学校給食検食）、東中小、東中中、上小、上中}	札幌市 各学校	
11	町表彰式 町総合文化祭 西小チャレンジ博覧会 上川管内教育委員会連合会委員研修会 江幌小開校 1 0 0 周年記念 江幌小学芸会 東中小学校開校 1 1 0 周年を祝う会	社教センター 社教センター 西小 上川町 江幌小 東中小	
12	定例町議会 教育委員研修旅行（兼上中陸上競技部全国大会応援） 上富良野高等学校教育振興会第 2 回役員会	役 場 山口県 上高	
1	町民新年交礼会 成人式	消防大会議室 かみん	
2	上川南部教育委員会委員研修会 町教育推進会議 町教育賞・教育奨励賞表彰式（上富良野高等学校）	富良野市図書館 社教センター 上高	
3	道立上富良野高等学校卒業式(上富良野高等学校) 町教育賞・教育奨励賞表彰式（江幌小） 町教育賞・教育奨励賞表彰式（高田幼稚園） いしずえ大学卒業式 定例町議会 町教育賞・教育奨励賞表彰式（西小・東中中） 町教育賞・教育奨励賞表彰式（上小・上中） 東中中学校卒業式 上富良野中学校卒業式	上高 江幌小 高田幼稚園 公民館 役 場 西小・東中中 上小・上中 東中中 上中	

高田幼稚園卒園式 町教育賞・教育奨励賞表彰式（東中小） 上富良野町教職員離任式 町内各小学校（上小・西小・東中小・江幌小）卒業式 道立上富良野高等学校オリエンテーション	高田幼稚園 東中小 社教センター 各学校 上富良野高校
--------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------

(4) 教育委員会議等の評価

(1) 教育委員会議について

規則規程の改正、各種委員の承認等、事務的な手続きによるもの以外については、各委員の高い識見と課題解決に向けた積極的な発言が多くありました。また、各委員への報告や協議、情報提供等により、円滑な議事が進行されました。

議案として取り扱う中でも、内容の軽重を吟味・精査し、慎重な審議が必要な案件についてはしっかりと時間をかけて議論することができるよう、説明や資料の提示や方法等も含めて、メリハリある議事運営に努めました。

(2) 各種行事、会議、研修会等への参加

- ① 学校訪問（教育委員）については、訪問する学校の日程を調整の上訪問し、各学校の取り組み等について学校長・教頭から説明を受けた後、児童生徒の学習の様子を見学するとともに、子ども達の学校での生活状況や学校運営方針、施設、教育環境等、様々な視点で、特徴や抱えている課題等を把握することに努めました。また、江幌小では、学校給食を児童、教諭と共に食べ、交流をしました。
- ② 学校経営訪問（指導監）については、町内の5小中学校（江幌小を除く）と日程を調整の上訪問し、それぞれの学校の取り組み等について、学校長・教頭から資料等に基づき説明を受けた後、指導監から学校経営に係る助言をいただき、今後の学校運営に役立てました。
- ③ 小中学校の入学式、卒業式、運動会、体育祭、学芸会、学校祭等の学校行事、児童生徒等表彰式については各委員が教育委員会を代表して出席しました。
- ④ 町の表彰式や教育委員会が主管する教職員の離着任式、成人式等に出席したり、全道、上川管内、富良野沿線の委員研修に積極的に参加して、教育委員自身の自己研鑽に努めました。
- ⑤ 教育委員会議の審議内容については、町役場の情報コーナーにおいて公開し、町のホームページにも公開しています。
今後も、教育委員会や学校等で取り組んでいる状況について町民の理解と協力を一層得るために、引き続き町の広報やホームページの活用を進める必要があります。

Ⅲ 「教育行政執行方針」に基づく点検・評価

(1) 学校教育班関係

	評価項目	細項目
1	学校教育	① 学校教育アドバイザー配置 ② 全国学力・学習状況調査 ③ 上富良野町学力向上プラン ④ 新学習指導要領への対応準備 ⑤ 学校評価の充実
2	児童生徒の指導	① 心の相談員配置
3	特別支援教育	① 特別支援教育指導助手配置 ② 特別支援教育連絡協議会 ③ 就学指導委員会
4	学校危機管理	① 登下校時における地域の見守り
5	へき地・複式教育	① へき地・複式教育
6	教育環境整備	① 教育用コンピューター整備 ② 耐震化調査 ③ 江幌小学校整備 (校舎・講堂屋上防水)
7	国際理解教育	① 英語指導助手の配置
8	道立上富良野高校への支援	① 上富良野高等学校教育振興会補助
9	姉妹校交流事業	① 姉妹校交流事業
10	幼稚園教育	① 私立幼稚園就園奨励補助 ② 私立幼稚園特別活動振興補助

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	1 学校教育	細項目	① 学校教育アドバイザー配置	推進目標			
目的	<p>教育を取り巻く状況はめまぐるしく改革が進められ、教育基本法や教育三法の改正が行われ、学校教育の根本的な部分からの見直しが進められようとしている中で、子ども達を取り巻く状況も大きく変化しており、学ぶ意欲や学力の低下、学習習慣の未成熟、規範意識の低下や倫理観の希薄化、社会的自立の遅れやいじめ問題など大きな課題が生じている。</p> <p>こうした状況の中で、行政職員のみでの教育委員会事務局体制下では、今般の教育改革に十分な対応を図ることが困難であり、専門的な知識と経験を持つ教育職員を教育委員会事務局に配置し、学校に対する指導助言、学校・家庭・地域の連携強化を図り、子ども達の学習環境の整備を図ることを目的とする。</p>			学校・家庭・地域の連携強化を図る			
概要	<p>教育委員会と町内各小中学校の連携強化を図り、各学校長と協力し、学校管理運営の充実を図る。「いじめ」「不登校」「問題行動」「虐待」等に対する早期発見、早期対応、早期解決のため、各学校を訪問し、教職員に対し適切な指導と助言等を行う。</p>			事業年度	開始	終了	
					H20年度	継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
			2,051	2,015		36	
検証内容				評価			
必要性	昨今に教育環境の変化に対応し、現場（学校）での経験を基に、教委及び学校の立場を十分理解した対応が必要となっている。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	平成20年度に初めて配置し、学校と教委事務局との距離感をなくし、これまで以上の連携が図れる。			B	A	A	
費用対効果	本来、各教委事務局に必要な「指導主事」的な役割も担っており、現在の費用以上の効果が得られている。			(理由・説明)			
方向性	学ぶ意欲や学力の低下、学習習慣の未成熟、規範意識の低下や倫理観の希薄化、社会的自立の遅れやいじめ問題など課題が山積していることから、継続的な配置が必要						
今後の取組み	今後の課題						
	様々な課題に対応するため、学校教育アドバイザーの活用範囲の拡大を図り、学校教育振興の体制づくりを更に推進していく必要がある。						
	改善策						
学校教育アドバイザーを活用し、校長会・教頭会等を通じて、学校に対する指導助言を行うと共に、学校・家庭・地域との連携をより一層強化していく							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	1 学校教育	細項目	② 全国学力・学習状況調査	推進目標	児童生徒の生活習慣・学習習慣の見直し、改善と学力向上を図る		
目的	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、その学習改善を図る。						
概要	実施日 平成22年4月20日(火) 調査対象 小学6年生、中学3年生 調査教科 小学6年生 国語・算数 中学3年生 国語・数学 抽出校 上富良野中学校 希望利用校 小学校4校、中学校1校			事業年度	開始 平成19年度	終了 継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額 国・道費	決算額 国・道費	差引
検 証 内 容				評 価			
必要性	学習や生活状況を把握・分析し、改善を図るためにも学力・学習状況調査が必要。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	全国の小学6年生と中学3年生が受験することにより正確な調査結果が得られ、本町の児童生徒の状況が把握できる。			B	B	B	
費用対効果	国費事業で効果的に実施されている。			(理由・説明) 各小中学校においては、改善プランを策定しており成果を上げている。			
方向性	全国学力・学習状況調査に参加し、その結果を詳細に把握・分析し成果と課題を検証し、改善を図る。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や学校での基本的な生活習慣が定着しており、基礎的な学力が身に付いていることが認められるが、文章での表現力、数学的な考え方による証明や空間図形の理解などに今少し伸びみやみが見られるなど、それを発展させ応用することに課題がある ・家庭での学習時間が少なくなっていく傾向が見られ、家庭学習の習慣化を図る必要がある。 						
今後の取組み	改 善 策						
	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かりやすい・楽しい授業」を基本として、基礎・基本の一層の定着や朝読書の習慣化と読解力の育成をはじめ、指導方法工夫改善加配(TT)を配置し、効果的な指導のあり方、宿題の効果的な出し方、放課後の補習、体験活動、課題解決的な学習などを積極的に取り入れ、応用力・活用力の向上を図る指導を推進する。 ・「進んで学ぶ上富っ子 家庭学習のすすめ」を作成し、児童生徒を介して各家庭に配布し、学校・家庭と連携した家庭学習の習慣化を図る。 						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価)

A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	1 学校教育	細項目	③ 上富良野町学力向上プラン	推進目標	上富良野町教育委員会としての方策をもとに、各学校は各自の課題・子どもの実態を再確認し、学力向上の具体策を立て実践化を図る。			
目的	平成21年度の学力学習状況調査から、全国との学力差に課題が明らかになった上富っ子の学力向上をめざした取組を構築する。							
概要	上富良野町としての学力向上プランの作成と実践 ・町としての学力向上への方策を各校に示す。 ・各校は、各自の課題を明確にして具体的な方策を立て、教育委員会に報告する。 ・各校は、上記の具体的な方策を実践する。			事業年度	開始	終了		
					平成21年度	継続		
				事業費 (単位:千円)	予算額	決算額	差引	
					無	無		
検証内容				評価				
必要性	もてる能力を十分発揮しきれていない上富っ子に対する方策は必要不可欠のものである。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	方策が具体的なものになり、実践する内容が明確にすることができた。			B	B	B		
費用対効果				(理由・説明) ・取組の成果を確かめるための調査検証に時間を要する。。				
方向性	方策にある「家庭学習の充実」などの定着を推進する。							
今後の取組み	今後の課題							
	<ul style="list-style-type: none"> 各校のさらなる学力への向上の努力をする。 家庭学習の進め方のマニュアルを作成し、家庭との連携を強化し、家庭の理解と協力を求める。 							
	改善策							
<ul style="list-style-type: none"> 「進んで学ぶ上富っ子 家庭学習のすすめ」を策定し、児童生徒を介して各家庭に配布し、家庭学習の習慣化を図る。 実践への評価を的確に行い、さらに明らかになった課題への解決に向けた方策の改善や新たな方策の構築を図る。 								

評価基準(達成度・効果度)

A:実践が進み成果を上げている

B:実践が進んでいる

C:実践に努めている

D:努力を要する

評価基準(総合評価)

A:維持・拡大

B:工夫・改善

C:縮小

D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	1 学校教育	細項目	④ 新学習指導要領への対応準備	推進目標	上富良野町教育委員会としての方策をもとに、各学校は各自の課題・子どもの実態を再確認し、学力向上の具体策を立て実践化を図る。			
目的	小学校に新たに教科として導入される「外国語活動」の円滑な授業推進に向けての準備・研修を目的とする。							
概要	校長会より委員長、教頭会より事務局長、小4校から推進委員に教諭各1名、教委3名で構成。 ・授業の進め方についての研究と授業の公開 ・授業推進に必要な教材教具の準備とその活用実践 ・評価の仕方の研修			事業年度	開始	終了		
				事業費 <small>(単位：千円)</small>	平成21年度	継続		
				予算額	決算額	差引		
				無	無			
検 証 内 容				評 価				
必要性	・新たな教科の取組に対し、研修は不可欠なものである。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	・外国語に不慣れな教諭が多い中、不安感を取り除き、準備にあたる事が出来ていた。			A	B	A		
費用対効果				(理由・説明) ・完全実施に向けての準備としては、役目を十分果たした。 ・本年度から先行実施しており授業効果も徐々に上がってきている。				
方向性	・新指導要領の完全実施後も継続して研修を進める。							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	・完全実施後の検証と改善（授業のすすめ方や教材教具の購入など）							
	改 善 策							
	・外国語活動推進委員会の継続実施。 ・検証に基づく有効な教材教具の購入に向けての予算化。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	1 学校教育	細項目	⑤ 学校評価の充実		学校の教育活動その他の学校運営について評価を行い、その結果に基づき学校及び設置者等が改善を図るとともに、評価結果を広く保護者等に公表することにより共通理解と相互の連携協力を促進するために学校評価の組織化と公表化を推進する。		
目的	学校評価の充実は、学校課題を明らかにし改善の方策の基盤となるものである。			推進目標			
概要	<ul style="list-style-type: none"> 各校に学校関係者評価委員会を設置し、地域の視点・意見も反映した評価とする。 保護者アンケートの結果や学校評価の結果を家庭・地域に公表し、相互の連携協力を促進する。 各校校長は、学校評価報告書を作成して教育長に報告する。 			事業年度	開始	終了	
					平成20年度	継続	
事業費 (単位：千円)				事業費	予算額	決算額	差引
					無	無	
検証内容				評価			
必要性	各学校の児童生徒の実態と、課題解決への努力の様子を把握し、今後の指導・助言・支援に活用する。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	保護者や地域の方々の学校に対する関心・理解・協力を得るための手立てとなる。・学校の現状と課題が明確になり、その解決への具体的計画と実践に向けての重要な資料となる。			A	B	A	
費用対効果				(理由・説明) ・学校評価の実施については、各学校とも文部科学省の方針を踏まえながら確実に実施されている。			
方向性	<ul style="list-style-type: none"> より効果的な学校評価の進め方のさらなる工夫と改善。 課題解決への適切な方策を構築するためのさらなる研究の推進。 						
今後の取組み	今後の課題						
	学校評価から明らかになった課題の一つ一つに対し、積極的な解決への工夫と改善をさらに図ること。						
	改善策						
各校の課題がどのように、どの程度解決されているかを確認する手立ての構築を行い、学校課題を明らかにし、改善方策を立てる。教育委員会としての学校への指導・助言・支援のあり方のさらなる工夫をして、学校経営の適正化に努める。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	2 児童生徒の指導	細項目	① 心の相談員配置				
目的	地域の人材を活用し、生徒が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また学校と保護者・地域のパイプ役として、不登校・問題行動等の未然防止や早期発見・早期対応に当たる。			推進目標	いじめ・不登校などの未然防止や早期対応		
概要	相談員を上富良野中学校に配置（週3日、1日4時間の相談活動） ・生徒の話し相手・悩み相談 ・家庭・地域と学校の連携支援 ・その他の学校の教育相談活動の支援 ・H22年度相談件数：803件			事業年度	開始	終了	
						継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				800	799	1	
検証内容				評価			
必要性	生徒のいじめ・不登校などの未然防止や早期対応するために必要			達成度	効果度	総合評価	
有効性	学校に相談できない問題を抱えている生徒や保護者が相談員に相談できるようになり、教師も生徒指導の問題を相談できるなどの状況の改善が図られてきている。			A	A	A	
費用対効果	少ない予算で効率的に事業の取り組みを行っている。			(理由・説明) 学校に相談できない問題を抱えている生徒や保護者が相談員に相談できるようになり、教師も生徒指導の問題を相談できるなどの状況の改善が図られてきている。			
方向性	生徒・保護者・教師が相談しやすい体制を構築することにより、不登校・いじめといった生徒が抱えている課題について早期発見・早期対応を図る。						
今後の取り組み	今後の課題						
	早期発見・早期対応の充実強化を実施することによりいじめ・不登校の減少を図る。						
	改善策						
	状況を踏まえながら、心の相談員の勤務日数・配置人員等についての考察を行いつつ、引き続き上富良野小学校、上富良野西小学校への配置についても検討していく。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	3 特別支援教育	細項目	① 特別支援教育指導助手配置		障がいのある児童生徒（LD等の発達障害を含む）一人ひとりのニーズに応じた教育の推進			
目的	特別支援教育対象児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育の推進のため、日常生活や学習支援、安全確保など学習活動上のサポートを行う。			推進目標				
概要	特別支援教育指導助手の業務内容 ①基本的な生活習慣確立のための日常生活支援 ②発達障害の児童生徒への学習支援 ③学習活動や移動等に関わる支援 ④児童生徒の健康・安全確保 ⑤学校行事における支援 ⑥周囲の児童生徒の障がい理解の促進 ⑦保護者との連携 ⑧その他 以上の8項目があり、学校の支持に従い、障がいのある児童生徒（LD等の発達障害を含む）並びに通常学級に在籍している学習困難等を抱える児童生徒を支援する。			事業年度	開始	終了		
						継続		
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引	
			3,699	3,532	167			
検証内容				評価				
必要性	発達障害のある児童生徒をサポートする。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	特別支援教育指導助手を配置することにより、発達障害を含む障がいのある児童生徒を適切に支援することができる。			A	A	A		
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 発達障がいを含む障がいのある児童生徒を適切に支援することができる。				
方向性	障がいのある児童生徒の個々に応じた教育の充実を図るため、特別支援教育指導助手の配置を継続する。							
今後の取組み	今後の課題							
	現在、上富良野小学校と上富良野西小学校にそれぞれ1名を配置しているが、今後においては、特別な教育的ニーズのある児童生徒が在籍する他の学校への配置も検討し特別支援教育の充実を図る必要がある。							
	改善策							
	特別支援教育指導助手の上富良野中学校への配置を検討。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	3 特別支援教育	細項目	② 特別支援教育連絡協議会	推進目標	心身に障がいのある幼児及び児童生徒、学習障がい(LD)注意欠陥多動性障がい(ADHD)及び高機能自閉症等を含めた障がい等のある幼児及び児童生徒への支援のため必要な活動を行う。			
目的	心身に障がいのある幼児及び児童生徒の適正な就学を図り、学習障がい(LD)注意欠陥多動性障がい(ADHD)及び高機能自閉症等を含めた障がい等のある幼児及び児童生徒への支援のため、調査・研究及び巡回指導等必要な活動を行う。							
概要	<ul style="list-style-type: none"> LD等を含む障がいのある児童生徒に対する支援体制の整備を促進するために、就学指導の機能を有する、教育・福祉・保健等の関係者からなる特別支援教育連絡協議会を設置 特別支援教育連絡協議会の中に専門部会を設け、各学校への助言・支援を行うための巡回相談、就学に関する相談や研修会等の取り組みを進める。 			事業年度	開始	終了		
				事業費 (単位：千円)	平成17年度	継続	予算額	決算額
					56	28	28	
検証内容				評価				
必要性	特別支援教育の充実を図るために、児童生徒等の障がいの重度・重複度、多様化や保護者のニーズに対応するため、関係機関との連携を図り、きめ細やかな指導や支援を行う必要がある。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	学校・関係機関との連携・協力し合う特別支援教育連絡協議会を設置し、その中に専門部会を設け、障がいに応じた適切な指導助言、保護者等への相談支援、学校への支援を行うため有効である。			B	A	A		
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 就学前の児童生徒の相談支援体制を整備し、児童生徒の教育的ニーズに応えた指導を行っている。				
方向性	地域や関係機関との連携による支援体制の整備促進に努め、児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援が行える体制整備を図る。							
今後の取り組み	今後の課題							
	<ul style="list-style-type: none"> 就学相談を含めた相談支援体制の確立 一人一人の児童生徒のニーズに応じた個別の支援計画の策定 保健福祉課、保育所、幼稚園、小学校、中学校と一貫した連絡体制を図る必要がある。 							
	改善策							
	<ul style="list-style-type: none"> 就学指導を含めた相談支援体制の充実を図り、各学校等の課題を共有し、課題解決ができるよう体制整備を行う。 各学校等が抱える課題等について、連絡協議会や関係機関が共有できる環境整備を確立する。 教育と福祉が中心となり、障がいの有無に関わらずお互いを尊重し、生涯に渡って上富良野で共に学び育ち、支え合う環境を創立する。 							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	3 特別支援教育	細項目	③ 就学指導委員会				
目的	発達障害を含む障がいのある児童生徒などの就学の適正を図ることを目的とする			推進目標	児童生徒などの就学の適正を図る		
概要	毎年1回、翌年度に入学及び進学する児童生徒の就学に関し、適正を図るため審議を行う。 新入学児童関係(102人) 特別支援学校入学者数数 1人 特別支援学級対象児童数 2人 ことばの教室通級対象児童数 7人 新入学生徒関係(105人) 特別支援学級対象生徒数 1人 特別支援学校入学者数 1人 在校児童生徒についても審議を行う。			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位:千円)	予算額	決算額	差引
				80	76	4	
検証内容				評価			
必要性	発達障害を含む障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うためにも必要性は大きい。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	就学指導委員会の審議結果を基に児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行っており有効性は高い。			A	A	A	
費用対効果	限られた予算の中での効果は大きい。			(理由・説明) 就学前検査状況と在校生の状況を充分把握した上での審議結果に基づき児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行っている。			
方向性	今後も継続する必要がある。						
今後の取組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> 就学相談を含めた相談支援体制の確立 一人一人の児童生徒のニーズに応じた個別の支援計画の策定 保健福祉課、保育所、幼稚園、小学校、中学校と一貫した連絡体制を図る必要がある。 						
	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> 就学指導を含めた相談支援体制の充実を図り、各学校等の課題を共有し、課題解決ができるよう体制整備を行う。 各学校等が抱える課題等について、連絡協議会や関係機関が共有できる環境整備を確立する。 教育と福祉が中心となり、障がいの有無に関わらずお互いを尊重し、生涯に渡って上富良野で共に学び育ち、支え合う環境を創立する。 						

評価基準(達成度・効果度) A : 実践が進み成果を上げている B : 実践が進んでいる C : 実践に努めている D : 努力を要する
 評価基準(総合評価) A : 維持・拡大 B : 工夫・改善 C : 縮小 D : 整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	4 学校危機管理	細項目	① 登下校時における地域の見守り	推進目標	児童生徒の登下校での安全を図る。			
目的	地域住民会において組織された「地域見守り隊」等により、児童生徒の登下校時における交通安全の推進と不審者等からの犯罪防止を目的に活動している。							
概要	「地域見守り隊」等は現在、5住民会で組織されており、上小及び西小校区の通学路を中心に活動している。 また、東中小の校区においては、不審者等が出没する等の緊急時に児童の通学路の周辺住宅に避難できるシステムを構築している。			事業年度	開始	終了		
						継続		
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引	
				無	無			
検証内容				評価				
必要性	児童生徒の登下校での危機管理強化を推進するために必要である。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	「地域見守り隊」等による、児童生徒の登下校や交通安全の推進が図られる。			B	A	A		
費用対効果	住民会経費の中で賄われている。			(理由・説明) 地域見守り隊の配置により児童生徒や教師の安全に対する意識の向上が図られた。				
方向性	今後も、各学校、PTAと連携を図る必要がある。							
今後の取組み	今後の課題							
	地域ボランティア活動として支援されているが、継続的に活動がされる様な体制作りのため、何等かの対応策が必要である。							
	改善策							
	児童生徒の登下校での危機管理強化を推進するために、地域住民会だけの活動とせず、PTA等にも活動を広げるために、生活安全推進協議会と連携し対応策の検討を進める。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	5 へき地・複式教育	細項目	① へき地・複式教育	推進目標	豊かな自然を生かす学習活動の推進		
目的	東中小学校、江幌小学校において、豊かな自然や小人数の特色を生かし、体験学習を主体とした学習を図る。						
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や自然に親しむ活動 ・勤労・体験学習、 ・学校種間の交流学习 			事業年度	開始	終了	
						継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				120	120	0	
検証内容				評価			
必要性	特色ある教育活動や心のふれあいを通じて、児童を育てるため必要性は高い。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	子ども一人一人の個性を伸ばさせ、豊かな人間性を培うことでへき地・複式教育の目的が図れる。			B	A	B	
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 小規模校の特性を生かした学習活動ができた。			
方向性	今後も、特色ある教育活動や心のふれあいを通じた学習機会を提供していく必要がある。						
今後の取組み	今後の課題						
	へき地・複式教育の特性を生かした特色ある教育活動を更に推進する。						
	改善策						
	小規模・少人数の利点を生かし、地域に根ざした特色あるふるさと学習、体験学習、集合学習、交流学习のさらなる充実を図る。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	6 教育環境整備	細項目	① 教育用コンピューター整備	推進目標	学校教育に関する情報機器の整備と円滑な利用を促進する。			
目的	教育の情報化を通して教育の質の向上を図るため、学校教育に関連する情報機器の整備と円滑な利用を促進する。							
概要	年次計画により、各小中学校の教育用コンピューター更新を図る。 平成22年度実施内容 対象校 上富良野西小学校 更新内容 教育用コンピューター42台、プロジェクター8台、電子黒板5台 購入他 ※ PC教室32台、普通教室、特学教室9台、図書室1台			事業年度	開始 平成19年度	終了 継続	更新計画	
				事業費 (単位：千円)	予算額 7,431	決算額 7,431	差引 0	
検証内容				評価				
必要性	学校における情報関連機器の整備は必要性が高い。新学習指導要綱による電子黒板を整備し活用を図る。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	児童生徒へ情報教育を実施するだけでなく、一般の授業の中での活用が広がることから情報関連機器の整備は、有効である。			B	A	A		
費用対効果	防衛庁調整交付金を活用しての更新であり全体的には高額であるが、町の持ち出しは比較的安価である。			(理由・説明) 計画的に更新されている。				
方向性	今後も計画的に更新していく。							
今後の取組み	今後の課題							
	・情報化社会への対応や、児童生徒の教育のため、教職員の児童生徒に対する情報教育の指導力向上を図っていく。							
	改善策							
・児童生徒における情報教育の充実のため、計画的に更新していく。								

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	6 教育環境整備	細項目	② 耐震化調査	推進目標	施設の耐震性を確認するため耐震2次診断を実施する		
目的	昭和56年以前建築（旧耐震基準）により建設された東中小学校・東中中学校校舎の耐震性を確認するため耐震2次診断を実施する。						
概要	耐震2次診断内容 ・東中小学校校舎棟 RC造 2階建 延床面積 1,837㎡ ・東中中学校校舎棟 RC造 2階建 延床面積 1,402㎡			事業年度	開始	終了	
					平成22年度	平成22年度	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				4,746	4,746	0	
検証内容				評価			
必要性	施設の耐震性を確認するためにも耐震診断が必要			達成度	効果度	総合評価	
有効性	施設の耐震性を確認し、児童生徒の安全を確保する上でも有効			A	A	A	
費用対効果	施設の耐震性を確認するためにも有効と判断する			(理由・説明) 耐震性能が確認され、教育環境整備の推進が図れる。			
方向性	調査結果を踏まえ整備計画を確立していく。						
今後の取組み	今後の課題						
	東中小学校校舎(Is値0.66~1.78)・東中中学校校舎(Is値0.40~2.11)調査の結果Is値が0.6未満については、改修が必要である。						
	改善策						
	調査結果を踏まえ、耐震改修・改築の整備計画を策定したことから計画に基づき実施を進める。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	6 教育環境整備	細項目	③ 江幌小学校整備(校舎・講堂屋上防水)	推進目標	施設の耐久性を向上させるため、防水工事を実施する。		
目的	校舎・講堂屋上の防水工事を施工するため						
概要	校舎屋上防水 一式 平面 649㎡ 立上 116㎡ 計 765㎡ 施工内容 高压洗浄、プライマー塗布、ウレタン2回塗 トップコート塗布 昇降仮設費 一式			事業年度	開始	終了	
					平成22年度	平成22年度	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					4,158	4,158	0
検証内容				評価			
必要性	施設の維持を図るため必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	施設の維持が図られ、耐久性が向上する。			A	A	A	
費用対効果	効率的に実施している。			(理由・説明) 防水工事を実施することにより、施設の耐久性の向上が図れる。			
方向性							
今後の取組み	今後の課題						
	特になし						
	改善策						
	特になし						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	7 国際理解教育	細項目	① 英語指導助手の配置	推進目標	児童生徒が英語を理解し、表現する基礎能力を養い、外国の文化や生活習慣を学び、国際理解教育を英語力の向上から深める。			
目的	英語に慣れ親しみ、日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶため、町内の小中学校に英語指導助手を派遣し、英語力の向上を図る。							
概要	姉妹都市であるカナダ国カムローズ市より英語指導助手を招き、町内の小中学校に派遣して英語教育、総合的な学習の時間（国際理解教育など）に活用する。 また、幼稚園や保育所にも派遣し、幼児期から英語に親しむ活動や町民を対象とした英語教室を開設（社会教育事業）し、町民全体が英語に親しめる環境を目指している。			事業年度	開始	終了		
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引	
				3, 8 8 7	3, 7 6 6	1 2 1		
検 証 内 容				評 価				
必要性	小学生段階から国際理解教育を充実することにより、次世代を担う子ども達に国際的な視野を持ったコミュニケーション能力を育成する必要がある。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	コミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地を育成するためには、英語指導助手を小中学校に派遣することは有効である。			B	A	A		
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 日本語の能力がない英語指導助手の小学校への派遣は、事前の教師との打合せや、授業においてコミュニケーションがうまくとれない場合がある。				
方向性	義務教育はもとより、生涯にわたる外国語学習の基礎を培うため継続して実施する。							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	学習指導要領が改定され、平成23年度から小学5・6年生に外国語活動が導入されることから、更に活用方法を検討していく必要がある。							
	改 善 策							
新学習指導要領移行期間（H21～H22）が終了し、平成23年度から全面実施となることから、各小学校と協議しながら、より有効な英語指導助手の活用方法を更に検討していく。								

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	8 道立上富良野高校への支援	細項目	① 上富良野高等学校教育振興会補助	推進目標	上富良野高等学校の特色ある学校づくりの振興		
目的	北海道上富良野高等学校の将来的展望に基づき教育環境整備を促進し、特色ある地域に根ざした学校づくりの振興に寄与する。						
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、生徒の学習等への支援 ・中・高校職員の交流活動への支援 ・特別活動、ボランティア活動への支援 ・生徒会活動、部活動、学校行事、教育環境整備、学校開放講座への支援 ・入学準備金の助成支援 ・特色ある学校づくり対策への支援 			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	2, 772	2, 622	
検証内容				評価			
必要性	上富良野高等学校が存続するためにも必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	特色ある地域に根ざした学校づくりの振興に有効性が高い。			A	B	A	
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 生徒の確保を目的に特色ある学校づくりに様々な支援を実施してきた。 平成23年度入学者が定員を13名、下回った。			
方向性	地域やPTAとの連携による支援体制の強化に努め、学校ニーズに応じた支援が行う必要がある。						
今後の取組み	今後の課題						
	平成23年度の入学は、27名と定員を13名下回り、今後の対応について、上富良野高等学校教育振興会が中心となり、各中学校・各関係機関とも協議・調整しながら、更に生徒の確保に努めなければならない。						
	改善策						
特色ある学校づくりを振興するための支援策の強化を図り、定員の確保に努めていく。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	9 姉妹校交流事業	細項目	① 姉妹校交流事業	推進目標	上富良野町立西小学校との姉妹校交流の推進を図る。		
目的	上富良野町立西小学校と三重県津市安東小学校の姉妹校交流を推進するため、交流会、交歓会、ホームステイ等の交流活動の場を通じて心豊かな子どもを育てる。						
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三重県津市安東小学校からの訪問（3年に1回 前回19年度実施） ・ 物品交流 ・ 交流会、交歓会 ・ ホームステイ 			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	
					130	130	0
検 証 内 容				評 価			
必要性	両校の伝統や地域のよさを学び心豊かな子どもを育てる場として必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	先人の勇気と強い心を学び、交流を通じて友情を築きながら、心豊かな子どもたちを育てることができる。			B	A	B	
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 両校の子ども達の交流を通じて、お互いの地域文化を理解できていると考える。			
方向性	今後においても両校との連携を図り、効果的な交流を図る必要がある。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	両校の伝統や地域のよさを学ぶことにより、心豊かな子どもを育てることができるため、相手校との協議を進めながら、よりよい交流の方法等を検討していく必要がある。						
	改 善 策						
より効果の高い交流の方法等を検討していく。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	10 幼稚園教育	細項目	① 私立幼稚園就園奨励補助				
目的	私立幼稚園へ通園する園児の保護者の経済的負担を軽減し、幼稚園教育の振興を図るため国の制度に基づき実施する。			推進目標	幼児教育の一層の普及充実を図る。		
概要	保護者負担の軽減を図るため、保護者の所得階層に応じて補助金を交付する。補助金の対象となる費用については、入園料と保育料のみ			事業年度	開始	終了	
						継続	
				事業費 (単位:千円)	予算額	決算額	差引
			12,676	12,561		115	
検 証 内 容				評 価			
必要性	私立幼稚園に通う園児の保護者の経済負担を軽減するため必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	幼児期の教育の重要性が指摘されており、経済的にも有効である。			A	A	A	
費用対効果	国の補助事業の基準に沿って、限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 保護者の所得状況に応じて経済的負担が軽減されており、効率的な活用が図られた。			
方向性	今後においても、国の動向を踏まえ、私立幼稚園と連携を図りながら実施していく必要がある。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	国の制度改正では、保護者負担が軽減される傾向にあるため、補助金の額が増加する傾向にある。平成22年度については補助単価のあり方が抜本的に見直され、一部の階層において前年度と比べ補助限度額が大きく減額となる階層があり、町独自の補助制度についての要望もあった。						
	改 善 策						
	今後においても、国の動向にを十分把握しながら適切な対応を図る。						

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 学校教育班

評価項目	10 幼稚園教育	細項目	② 私立幼稚園特別活動振興補助						
目的	幼児教育を担っている私立幼稚園の預かり保育事業、教職員の研修事業等に対して補助金を交付し、より一層の普及充実を図る。			推進目標	幼児教育の一層の普及充実を図る。				
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質の向上を図るための研修、研究に関する費用 ・魅力のある教育の場の確立を図るための教材作成に関する費用 ・共働き家庭のために実施する預かり保育に係る人件費 			事業年度	開始	終了			
						継続			
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引		
			2, 500	2, 500	0				
検 証 内 容				評 価					
必要性	社会状況の多様化とともに、幼児教育の重要性・必要性が高まっている。特に預かり保育についてはその要望も増えている。			達成度	効果度	総合評価			
有効性	共働き家庭のための預かり保育については、特に有効である。			B	A	A			
費用対効果	限られた予算の中で効率的に実施している。			(理由・説明) 教職員の資質の向上を図るための研修、教材、及び預かり保育の人件費等で幼児教育の推進が図られた。					
方向性	今後においても、私立幼稚園と連携を図りながら実施していく必要がある。								
今後の取組み	今 後 の 課 題								
	特になし								
	改 善 策								
特になし									

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

(2) 社会教育班関係

	評 価 項 目	細 項 目
1	家庭教育	① 家庭教育力の向上対策
2	青少年教育	① 子ども会育成協議会 ② スポーツ少年団育成事業 ③ 青少年団体協議会 ④ 青少年海外派遣交流事業 ⑤ 学校支援地域本部事業
3	放課後プラン事業	① 放課後スクール事業 ② 放課後クラブ事業
4	成人・高齢者教育	① いしずえ大学 ② 女性学級（女性教育）
5	文化芸術の振興	① 総合文化祭 ② 上富良野町文化連盟活動事業 ③ 自主企画芸術鑑賞補助
6	図書館運営	① 図書館管理運営 ② ブックスタート ③ 読み聞かせ会 ④ 読書コンクール
7	文化財歴史の保存・活用	① 指定文化財保存 ② 郷土館収蔵物データ化事業
8	スポーツ振興	① スポーツ団体（体協）補助 ② 各種スポーツ大会参加補助 ③ スポーツ教室の開催 ④ スポーツ普及活動
9	社会教育施設の管理	① 各公民館分館管理運営 ② 公民館暖房施設改修 ③ 公民館管理運営 ④ 社会教育総合センター管理運営 ⑤ B&Gプール管理運営 ⑥ パークゴルフ場管理運営

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	1 家庭教育	細項目	① 家庭教育力の向上対策			
目的	家庭は、子ども達の健やかな育ちの基盤であり、すべての教育の出発点です。子育てや家庭教育を支える地域環境が大きく変化している中、地域全体で子どもや家庭を見守り育てるため、教育分野や福祉分野が連携し、子育て支援を行う。			推進目標	家庭教育力の向上を図る	
概要	(教育分野) ・親の子育て支援に関する学習機会の提供、情報提供を行う。 (1)道民家庭の日の普及促進 (2)家庭教育学級の開設(すこやか子育てセミナーなど) ※講師旅費のみ支出 (3)早ね早おき朝ごはんの取り組み、啓発活動 (4)子育てサークルの活動サポート (5)ママパパ情報タウンちゃん WEB版の作成、更新 (6)広報誌(隔月)家庭教育シリーズの掲載 ※校長会			事業年度	開始	終了
				事業費 (単位:千円)	10	10
検証内容			評価			
必要性	親に対する多様な学習の機会及び情報の提供を行い、家庭教育の自主性を尊重しつつ、自らの役割と責任を果たす親の育成に努める必要がある。			達成度	効果度	総合評価
有効性	家庭のあり方など、親同士の交流、情報交換、地域コミュニケーションのツールとして有効である。			B	B	B
費用対効果	講演会の講師にかかる経費を計上。			(理由・説明) 家庭教育を支援する環境は重要であり、今後も必要な支援である。		
方向性	子育て支援班など関係機関と連携しながら、家庭教育の支援を行う。					
今後の取組み	今後の課題					
	子育て支援班と連携し、役割分担する必要がある。 各保護者会、各学校PTAを通じて、家庭教育にかかる情報提供が必要である。					
今後の取組み	改善策					
	家庭教育にかかる情報提供について、講演会・広報誌等を通じて周知するとともに、子育て支援班と連携し事業を推進する。					

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	2 青少年教育	細項目	① 子ども会育成協議会			
目的	地域社会での集団行動を通じて、子ども達の協調性・創造性を養い体験から学び、豊かな心を育てることを目的に行われる子ども会育成協議会の活動に対して支援を行う。			推進目標	子どもの健全育成を図る	
概要	子ども達がたくましく成長する様々な交流、体験活動を行う。 事業内容 田植え・稲刈り体験、子ども行灯行列、ジュニアリーダー研修会、野外体験(キャンプ)、子ども会祭り、餅つき交流会など 登録団体数・会員数 29団体 546人			事業年度	開始	終了
				事業費 (単位:千円)	予算額	決算額
				300	300	0
検証内容			評価			
必要性	単位子ども会の活性化を目指し、子ども達の発達を促すためにも必要である			達成度	効果度	総合評価
有効性	様々な行事を通しての子ども同士の交流や、保護者間での交流も活性化している。			A	A	A
費用対効果	限られた予算の中で活発な活動を展開しており効果は大。			(理由・説明) 子ども同士の交流や、保護者間での交流も活性化している。		
方向性	子ども会の活性化に向けて育成者の研修強化を図る。					
今後の取組み	今後の課題					
	少子化が進む中で、子ども会の活性化に向けた支援は重要であり、育成者の研修強化も必要であるが、今後に向けては単位子ども会の統合等についても検討する必要があると考えられる。 また、各自治会組織の関わり方についても検討していく必要がある。					
	改善策					
	各自治会組織に関わっていただきながら、子ども会の活性化に向けて育成者の研修強化を行うことにより地域の教育力の向上を図る。					

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する

評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	2 青少年教育	細項目	② スポーツ少年団育成事業	推進目標	スポーツ振興の発展を図りながら、青少年の身体と健康づくりを目指す		
目的	町内スポーツ少年団の組織運営や研修等を円滑に推進し、一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを与え、スポーツを通じて青少年の心と身体を育てる組織を地域社会の育み、スポーツ振興の発展を図ることを目的とする。						
概要	スポーツ少年団本部に対し補助を行い、町内スポーツ少年団の育成指導を図り、その活動を活発化する 加盟団体 11団体 団員数 337人			事業年度	開始	終了	
					昭和50年度	継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					1,100	1,100	0
検証内容				評価			
必要性	スポーツを通じて青少年の心と身体を育てることを目指しおり、スポーツ振興の発展推進のため必要性は大である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	スポーツ少年団の育成指導を図り、その活動を活発化しており有効である。			B	B	B	
費用対効果	限られた予算の中で、各団体の活動に補助し、その活動は活発化しており費用対効果は大である。			(理由・説明) 青少年の心と身体を育てることを目指し、スポーツ振興の発展推進のため、スポーツ少年団の育成指導を図り、その活動を活発化している			
方向性	今後も本事業を継続し、青少年スポーツ活動を助長する。						
今後の取組み	今後の課題						
	スポーツ指導者の育成と確保が課題となっている。						
	改善策						
	指導者育成研修会等を地元で開催できるような検討を行うまた、町単独での研修会開催の検討を進める。						

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	2 青少年教育	細項目	③ 青少年団体協議会	推進目標	ボランティア活動や地域活動にかかわることで、次世代の青年を養成する。		
目的	地域の活性化、新たな生活文化の創造と生涯学習の意識高揚に基づき、地域青年リーダーの養成を図ることを目的とする。						
概要	1. 児童館活動支援 2. 子ども会活動支援 3. ゴミ拾い・雪下ろしボランティア 4. クリスマスプレゼント配布 5. 全道青年大会参加 他 会員数 25名 ○全道青年祭開催 第38回北海道青年祭実行委員会（上富良野町・中富良野町） 日程 8月7日（土）、8日（日） 参加人数 延べ82名 会場 上富良野町保健福祉総合センターかみん			事業年度	開始	終了	
					昭和37年	継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				50	50	0	
検証内容				評価			
必要性	青年が集い親睦交流やボランティア活動を通じて、町づくり・地域づくりを担う青年リーダーを養成する必要がある。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	青少年活動支援及びボランティア活動等に積極的に参加され効果が得られている。			B	B	B	
費用対効果	会費と補助金で運営。			(理由・説明) 地域の活性化、新たな生活文化の創造と生涯学習の意識高揚を図っている。			
方向性	教育振興基本計画（第7次社会教育中期計画）に基づき、今後も活動の継続を期待している。						
今後の取組み	今後の課題						
	会員数25名で登録者数は多くない。趣味・スポーツ等の活動が多様化しており、特に集団活動への参加は低迷している。						
	改善策						
	広報誌等により活動内容の紹介等を行い活動状況を知ってもらうことにより新規会員の獲得を図る。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	2 青少年教育	細項目	④ 青少年海外派遣交流事業	推進目標	上富良野町と縁のある都市等の歴史・経済・教育・環境等について見聞を広め、学習する。		
目的	上富良野町の将来を担う青少年育成事業として、友好都市提携を結んでいるカナダカムローズ市に派遣し学習する。						
概要	国際性豊かな人材育成として、友好都市提携を結んでいるカナダ国カムローズ市に派遣しホームステイするとともに、カナダの広大な自然体験を通じて学習する。事業は3カ年間毎とし、事業運営は、青少年国際交流実行委員会を組織。参加者の研修費用は60%を国内外交流基金から補助している。			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	昭和63年	継続	
					予算額	決算額	差引
					4,729	4,729	0
検 証 内 容				評 価			
必要性	町の将来を担う青少年の人材育成として、今後グローバル社会に向けて国際交流事業は必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	リーダーとして活躍するとともに、将来にむけて学習意欲が高まっている。			A	A	A	
費用対効果	事業運営にあたり青少年国際交流実行委員会を組織し、共通経費等は町負担。参加者の研修補助は、国内外交流基金から60% 自己負担は40%。			(理由・説明) 町の将来を担う青少年の人材育成には必要な事業である。			
方向性	教育振興基本計画（第7次社会教育中期計画）に基づき、今後も人材育成事業の継続は必要である。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	カナダ国カムローズ市のホームステイや施設見学等の調整役を担っていただいているカムローズ日本友好委員会ミチコ・ラスムセンさんとの連絡調整等の継続が課題である。						
	改 善 策						
今後の交流事業について、カムローズ日本友好委員会との連携により、事業を実施できるよう取り進めていく。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	2 青少年教育	細項目	⑤ 学校支援地域本部事業				
目的	学校、家庭、地域の連携協力のもと地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的とする。 「みんなで支える学校 みんなで育てる子ども」			推進目標	学校、家庭、地域住民が教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携、協力を努める。		
概要	それぞれの学校の状況に応じて地域ぐるみで学校の教育活動の支援をボランティアが行う。 学校では教育活動のさらなる充実が図られ、地域は町民自らの学習成果を生かす場が広がり、地域の教育力が向上され、大人が子どもと向き合う時間が増える。 ※実行委員会を組織し、平成22年度まで道委託業務として実施			事業年度	開始	終了	
					H20	継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				無	無		
検 証 内 容				評 価			
必要性	これからの教育は学校だけが役割と責任を負うのではなく、これまで以上に学校、地域、家庭の連携協力が必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	この活動を通じて、地域の連帯感が形成され、地域の教育力の向上や地域の活性化につながると考える。			B	A	B	
費用対効果	北海道からの委託補助事業として実施しているが、対象経費にボランティア員の活動費、謝金等は対象外である。 事業全体の広報啓発費、保険料が主な補助経費である。町の一般財源はなし。			(理由・説明) ボランティア員 61 名が登録され、少しずつ事業が浸透してきている。 需要と供給のバランスも重視しながら、より良い体制の整備が望まれる。			
方向性	今後も学校、地域、家庭が連携した取り組みは必要である。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	これまでのPTA活動や学社融合事業、図書館読み聞かせ事業など、地域が学校と連携し関わって実施してきた取り組みとの意義・目的の明確化が必要						
	改 善 策						
	将来的な展望で、地域と学校との係わりの体制整備を図り、必要経費など予算も統括的に検討をしていく。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	3 放課後プラン事業	細項目	① 放課後スクール事業	推進目標	学校施設を利用し、子どもの安全な居場所づくりを確保する。			
目的	放課後における子どもの安全安心な居場所づくりの確保と子どもの健全育成と、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを目的とする。							
概要	各小学校を活動拠点とし、地域の参画を得ながらスポーツや文化活動、交流活動を行う。(放課後クラブ事業と同時進行) 対象 小1～小6年 上小・西小 月～金(放課後から午後4時) 江幌小 週1回 みんなで遊ぼう教室を開催 登録人数 178人 利用人数 延べ8,844人 開設日数 延べ437日 ※地域住民によるボランティア支援 延べ131名(クラブ含め)			事業年度	開始	終了		
					平成19年度	継続		
				事業費 (単位:千円)	予算額	決算額	差引	
					10,949 (クラブ含め)	10,858 (クラブ含め)	91	
検 証 内 容				評 価				
必要性	放課後の子どもの安全な居場所づくりを行い、地域の大人達に関わることで子ども達の健全な育成を図る上からも必要性は大きい。			達成度	効果度	総合評価		
有効性	放課後の子どもの安全な居場所づくりを行い、地域の大人達に関わることで子ども達の健全な育成が図られており、有効性は大きい。			A	A	A		
費用対効果	国費、道費の補助があり、費用対効果は大。			(理由・説明) 地域の大人達に関わることで子ども達の健全な育成が図られている				
方向性	今後も継続							
今後の取組み	今 後 の 課 題							
	<ul style="list-style-type: none"> 既存の学校施設の空きスペースを利用しながら運営しているが、今後においては登録者、利用者の増加が予測されている中で空きスペースの確保が大きな課題である。また、特別支援対象児童(5人)の受入れ等や指導員体制のあり方等について検討していく必要がある。 国、道費の補助限度額が設定され、今後運営にかかる経費等について検討していく必要がある。 							
	改 善 策							
<ul style="list-style-type: none"> 保健福祉所管との連携による特別支援対象児童の受け入れ検討 学校支援ボランティア員との連携・協力体制の整備 利用料金(受益者負担)のあり方を検討する。(受益者負担の定期的な見直し) 上富良野小学校改築時に実施スペースの確保を図る 								

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する

評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	3 放課後プラン事業	細項目	② 放課後クラブ事業	推進目標	学校施設を利用し、子どもの安全安心な居場所づくりを確保し、留守家庭等の子育て支援を行う。		
目的	放課後における子どもの安全安心な居場所づくりの確保と留守家庭等の子育て支援を目的とし、保護者の就業を支援して子どもの健全育成を目的とする。						
概要	各小学校を活動拠点とし、地域の大人たちが指導員となりスポーツや各種遊びを行いながら、子ども達を見守る。(放課後スクール事業と同時進行) 対象 小1～小3年の留守家庭児童 上小・西小 月～土(放課後から午後6時) 江幌小・東中小(長期休業期間) 登録人数 97人 利用人数 延べ14,874人 開設日数 延べ582日 ※地域住民によるボランティア支援 延べ131名(スクール含め)			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位:千円)	平成19年度	継続	
					予算額	決算額	差引
					10,949 (スクール含め)	10,858 (スクール含め)	91
検証内容				評価			
必要性	放課後における留守家庭児童の安全な居場所づくりと子育て支援を行い、地域の大人達が関わることで子ども達の健全な育成を図る上からも必要性は大きい。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	放課後における留守家庭児童の安全な居場所づくりと子育て支援を行い、地域の大人達が関わることで子ども達の健全な育成が図られており、有効性は大きい。			A	A	A	
費用対効果	国費、道費の補助があり、費用対効果は大			(理由・説明) 放課後における留守家庭児童の安全な居場所づくりと子育て支援を行い、地域の大人達が関わることで子ども達の健全な育成が図られている			
方向性	今後も継続						
今後の取組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> 既存の学校施設の空きスペースを利用しながら運営しているが、登録者、利用者の増加が予測されている中で空きスペースの確保が大きな課題である。また、特別支援対象児童(6人)の受け入れ等において、指導員体制や研修のあり方等について検討していく必要がある。 国、道費の補助が毎年改正される等、不明確であり対応を考慮していく必要がある。 						
	改善策						
<ul style="list-style-type: none"> 保健福祉所管との連携による特別支援対象児童の受入検討 ※利用前にカンファレンスの実施、定期的な訪問指導・情報交換を実施 指導員の確保と養成 ・上富良野小学校改築時に実施スペースの確保を図る。 平成22年度に利用料金(受益者負担)について、総額費用の10%を目標に改正(年間6,000円→12,000円)。 							

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	4 成人高齢者教育	細項目	① いしづえ大学	推進目標	高齢者の活動の場を確保し、生きがいつくりなど生涯教育の推進を図る		
目的	高齢者が「若く老いよう」を合言葉に仲間が集い、共に学習やクラブ活動で文化・スポーツ・生活等について学び、正しい心と健やかな体をつくり、豊かな生活を築くことを目的とする。						
概要	<p>139人の学生が在籍し、最長10年間にわたり月2回（毎月第2・4金曜日）の学習日がある。</p> <p>学習計画に従い教養講座、軽スポーツ、運動会、クラブ活動、ボランティア活動、研修旅行などを行う。</p> <p>※役員会、年11回実施</p> <p>※学級懇談会、年2回実施</p>			事業年度	開始 昭和47年度	終了 継続	
				事業費 (単位:千円)	予算額 619	決算額 552	差引 67
検証内容				評価			
必要性	今後において高齢者社会を迎えるにあたり、高齢者の活動の場を確保し、生きがいつくりなど生涯教育において重要な事業と位置付けている			達成度	効果度	総合評価	
有効性	高齢者の学習機会を得る場として、いしづえ大学が有効に機能している。また、人とのつながりの場でもあり、地域生活においても大変有効である。			A	A	A	
費用対効果	限られた予算の中で効果は大きい。			(理由・説明) 高齢者の活動の場を確保し、生きがいつくりなど生涯教育において重要な事業と位置付けている			
方向性	今後も事業を継続していく必要がある。						
今後の取組み	今後の課題						
	60歳から入学でき、10年間在籍できるようになっているが、長寿傾向の中で在籍期間の延長が望まれている。又、学習した成果を地域社会で生かすことで、地域との関わりを更に強く持つことが望まれる。						
	改善策						
<ul style="list-style-type: none"> ・長寿傾向の中で在籍期間の延長が望まれていることから、入学年齢や在籍期間等についても検討していく必要がある。 ・地域において知識・経験を生かす人材活用の場の確保について検討をしていく必要がある。 							

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	4 成人・高齢者教育	細項目	② 女性学級（女性教育）	推進目標	女性の学習の場を確保し、生きがいつくりなど生涯教育の推進を図る		
目的	女性が多様化・高度化する社会の課題に自らが学習カリキュラムを計画することにより、文化・スポーツ等について学び、女性の交流の輪を広げ豊かな生活を築くことを目的とする。						
概要	【実施要綱に基づく】 定員⇒50名 学習期間⇒4月開講式、5月～1月（9回）2月閉講式 学習内容⇒講話・軽スポーツ・趣味の学習・社会見学 等			事業年度	開始	終了	
					昭和46年	継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					24	24	0
検 証 内 容				評 価			
必要性	女性の学習活動の場を確保し、生きがいつくりなど生涯教育において重要な事業と位置付けている			達成度	効果度	総合評価	
有効性	女性の学習機会を得る場として、学級が有効に機能している。			A	A	A	
費用対効果	限られた予算の中で効果は大きい。			(理由・説明) 女性の学習活動の場を確保し、生きがいつくりなど生涯教育を図る。			
方向性	今後も事業を継続していく必要がある。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	50名の定員に対して42名受講。再募集したが定員に満たなかった。実施要綱改正により、いしずえ大学との重複受講者は7名（前年度対比10名減）						
	改 善 策						
	募集にかかる周知期間を見直し、より多くの住民が受講できるよう周知する。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	5 文化芸術の振興	細項目	① 総合文化祭			
目的	文化の日（11月3日）を中心に、町内で文化活動を行っている愛好者の発表機会と鑑賞機会を設け、町の文化発展に寄与することを目的とする。			推進目標	文化活動を行っている愛好者の発表機会と鑑賞機会を設け、町の文化発展に寄与する	
概要	文化団体、町、農協、商工会等で構成する文化祭実行委員会が主催し、芸能発表、展示会、体験教室などの日頃から研鑽している文化活動の発表を社会教育総合センターを会場として行う。 平成22年度 入場者数 4,667人 芸能発表 20団体 171人 展示数 1,280点			事業年度	開始 昭和38年度	終了 継続
				事業費 (単位：千円)	予算額 300	決算額 300
検 証 内 容				評 価		
必要性	町内の文化愛好者が発表機会を得ることにより、町の文化発展に大きな効果が得られることから必要である。			達成度	効果度	総合評価
有効性	町の文化発展に大きな効果が得られている。			A	A	A
費用対効果	実行委員会への負担金のみで運営されており、少ない費用で町のイベントとして位置付けされており効果は大である。			(理由・説明) 町及び文化団体により実行委員会を組織して実施している。		
方向性	町の文化発展に大きく寄与しており、今後も継続していくことが必要					
今後の取組み	今 後 の 課 題					
	各関係団体・機関が、参画できるよう取り組みを進める。					
	改 善 策					
各関係団体・機関が参画できるよう実行委員会において検討協議を進める。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	5 文化芸術の振興	細項目	② 上富良野町文化連盟活動事業				
目的	町民の文化向上と各単位団体間の連携と親睦を図る。			推進目標	町の文化振興		
概要	町文化連盟を中心に各単位団体が活発な活動を展開し、町総合文化祭においても、連盟役員が実行委員会に参画し、芸能発表や展示等の参加調整をしている。 文化活動の推進ばかりでなく、日頃の研鑽した活動を福祉分野においても展開している。 ※平成21年度 42団体 423名 ※平成22年度 42団体 428名			事業年度	開始	終了	
					昭和40年	継続	
			事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引	
				140	140	0	
検 証 内 容				評 価			
必要性	町の文化振興には必要不可欠と考える。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	町の文化発展に大きな効果が得られている。			A	A	A	
費用対効果	町からの補助金と登録料・会費等で運営されている。自主的に町のイベント及びボランティア活動に参画し効果は大である。			(理由・説明) 町の文化発展に大きな効果が得られている。			
方向性	町の文化発展に大きく寄与しており、今後も継続していくことが必要						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	文化連盟及び各文化団体の後継者不足、若年層（青年）が少ない。						
	改 善 策						
	<ul style="list-style-type: none"> 文化連盟及び各文化団体における後継者の育成。 各団体の活動状況等を広報等により知ってもらうことで新規会員の獲得を図る。 						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	文化振興関係	細項目	③ 自主企画芸術鑑賞事業			
目的	町民が自主企画し、芸術・芸能・文化等の鑑賞機会を地域住民に提供する機会の充実を図ることの支援、また、地域住民の心に安らぎと潤い、豊かさをもたらすことを目的とする。			推進目標	団体育成の向上、地域住民への鑑賞機会提供の拡大を目的とする。	
概要	2団体が申請し、各団体で調整、運営し、地域住民に鑑賞機会を提供する。 実施内容 ・7/11（日）白いうた青いうたフェスティバル in 上富良野（白いうた青いうたミニフェスティバル in 上富良野実行委員会） 103名 ・9/23（木）木管五重奏 hime（音楽が大好きな仲間の会） 279名			事業年度	開始	終了
				事業費 (単位：千円)	平成11年度	継続
			予算額	決算額	差引	
			200	199	1	
検 証 内 容			評 価			
必要性	町づくり・地域づくりを図るにあたり、団体育成、地域住民に芸術・芸能・文化等の鑑賞機会の提供が必要である。			達成度	効果度	総合評価
有効性	自主的に公演を企画・運営することで団体の活動向上となり、また、多くの地域住民が鑑賞に来ている。			B	A	B
費用対効果	補助金と団体費用で実施。			(理由・説明) 地域の活性化、新たな生活文化の創造の意識高揚を図っている。		
方向性	今後も継続して実施。					
今後の取組み	今 後 の 課 題					
	事業実施団体が固定化している。他の団体・サークル等への情報提供が必要である。					
	改 善 策					
広報誌・防災無線により、自主企画芸術鑑賞事業の趣旨、要綱等の事前周知を充分に行い、事業に対する理解度を高める。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	6 図書館運営	細項目	① 図書館管理運営	推進目標	幼児期から成人まで継続した読書習慣や様々な調査・研究等ができる資料の提供、また、地域の情報源となる図書館を目指していく。		
目的	図書、雑誌、視聴覚資料等のメディアや情報資料を収集、保管し、利用者への提供を行う。また、読み聞かせ活動や講座を通じて、読書の普及を行う。						
概要	図書・視聴覚資料の貸出し ※23. 3末現在 開館総日数 296日 閲覧者数 27,090人 1日平均 91.5人 貸出蔵書数 76,767冊 1日平均 259.3冊 人口一人当たり貸出冊数 6.5冊 蔵書数 44,482冊 読み聞かせ（保育所・幼稚園・子育てセンター・小学校） 映画会（2か月に1回）6回述べ257人、図書館まつり318人			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	7,795	7,731	64
検証内容				評価			
必要性	図書館は町民に対して読書普及の推進や資料提供を行うため、不可欠である			達成度	効果度	総合評価	
有効性	町民の読書や資料収集の場になっており、有効性は高い			B	A	B	
費用対効果	図書購入費は必要最小限にし、寄付などによる蔵書を行っている			(理由・説明) より多くの町民に利用してもらえるよう、あらゆる図書館事業の中で情報提供や周知を図っていく。			
方向性	今後も継続して実施						
今後の取組み	今後の課題						
	・利用者の固定化や年齢層の偏りがあるため、幅広い町民が利用できる環境や情報提供を行う必要がある。 ・子どもの読書推進を進めていくため各関係機関と連携し、具体的な活動計画を作成していく必要がある。						
	改善策						
・時期（季節）に応じた特設コーナーの設置やホームページ等を活用し、様々な場面において情報提供を行い、町民が身近に感じられる図書館にしていく。 ・子ども読書推進計画を策定し、具体的な活動計画を作成し各関係機関と連携を図りながら読書普及に努めていく。(H23策定予定)							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	6 図書館運営	細項目	② ブックスタート	推進目標	すべての赤ちゃんと保護者に家庭での絵本に触れるきっかけづくりを目的に7か月児健康相談時に実施		
目的					すべての赤ちゃんと保護者に家庭での絵本を読むきっかけをつくる		
概要	健康相談を受けにきた親子1組に対し読み聞かせをする 絵本のリスト(赤ちゃん絵本の紹介)及び図書館利用の案内を配布 月1回、第4水曜日開催 9:00~10:30で、読み聞かせ会「ムーミン」の会より、 2人の支援を受けている 7か月児健康相談時 延べ100人			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位:千円)	平成16年	継続	
				予算額	決算額	差引	
				24	22	2	
検 証 内 容				評 価			
必要性	赤ちゃんと保護者が家庭での絵本に接する時間づくりのきっかけをつくり、情緒を育む必要がある			達成度	効果度	総合評価	
有効性	絵本の持つ素晴らしさを読み聞かせを通じて伝え、絵本に興味をもってもらえ有効性が高い			B	A	B	
費用対効果	ボランティアの支援で行っており、本に興味をもってもらうきっかけにつながっている			(理由・説明) 図書館の利用案内や読み聞かせの意義を伝えることにより、図書館の利用につながり、読書普及につながっている			
方向性	今後も継続する必要がある						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	ブックスタート事業が健康相談を受ける保護者とその子ども全てに伝わっておらず、ブックスタートコーナーに立ち寄らないことがあり、事前に保護者へ周知する必要がある。						
	改 善 策						
4か月児健康診査の対象の保護者に対し、ブックスタート事業のパンフレットを配布し、事前に事業内容を周知する。							

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	6 図書館運営	細項目	③ 読み聞かせ会	推進目標	すべて家庭で子どもが自ら本を読むきっかけをつくる		
目的	幼児や児童とその保護者に対し家庭で自ら本を読むきっかけをつくる						
概要	読み聞かせ（保育所・幼稚園・子育てセンター・小学校） 保育所・幼稚園・子育てセンター 述べ59回 述べ2,573人 ※読み聞かせ会「ムーミン」及び図書館職員で実施 小学校（上小・西小・江幌小）述べ106回 述べ3,524人 ※読み聞かせ会「ムーミン」及び「ものがたり文化の会」で実施			事業年度	開始	終了	
					平成18年	継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					12	9	3
検 証 内 容				評 価			
必要性	読み聞かせを通じて、幼児や児童に対し読書の習慣を身につけ、読書の関心を高め、読書意欲の向上と情緒を育む環境を推進する必要がある			達成度	効果度	総合評価	
有効性	参加する幼児や児童が増え関心が高まっており、有効性が高い			B	A	B	
費用対効果	ボランティア及び職員で行っているため、費用対効果は高い			(理由・説明) 読み聞かせの場面を通じて、本に興味をもつことができている幼児や児童が増えてきている。			
方向性	今後も継続する必要がある						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア員を育成する機会が少ない ・全ての学校で読み聞かせが実施できていない 						
	改 善 策						
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア員の育成のため、ボランティア団体や一般町民向けの読み聞かせ講習会等を検討する ・全ての学校で読み聞かせが実施できるように調整する 						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	6 図書館運営	細項目	④ 読書コンクール			
目的	町民の生涯学習の一環として読書に親しみ、その感動を表現するとともに読書普及活動の推進を図る。			推進目標	読書コンクールを通じて、読書普及活動の推進を図る	
概要	秋の読書週間にちなみ、9月1日～9月21日の募集期間を設け、募集期間に応募のあった作品を審査し、表彰を行い、文集を作成している。 また、感想画については、入選した作品を文化祭等に展示している。 応募数 感想文 126点（入選29点） 感想画 321点（入選33点）			事業年度	開始	終了
				事業費 (単位：千円)	昭和50年	継続
				予算額	決算額	差引
				20	8	12
検 証 内 容				評 価		
必要性	読書感想文・感想画コンクールを通して、読書普及活動につながっている			達成度	効果度	総合評価
有効性	多くの児童生徒がコンクールに参加しており、有効性が高い			B	A	B
費用対効果	経費は最小限であり、費用対効果は高い			(理由・説明) 高校生・一般の応募はほとんど無いが、多くの児童・生徒がコンクールに募集している		
方向性	今後も継続する必要がある					
今後の取組み	今 後 の 課 題					
	小学校・中学校の児童生徒のみの応募になっており、高校生や一般町民の応募は無いが、読書感想文・感想画コンクールを通じて、読書啓発の機会になっており、今後も引き続き行っていく必要がある。					
	改 善 策					
<ul style="list-style-type: none"> ・現在より多くの応募をしてもらえるよう、広報誌、ホームページなどで幅広く周知を図っている。 ・高校・一般の応募が、出てくるような仕掛けの検討を進める。 						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	7 文化財歴史の保存・活用	細項目	① 指定文化財保護	推進目標	町にとって重要な文化財の適切な保存や活用を図る		
目的	北海道文化財保護条例の規定による指定を受けた文化財以外の文化財で上富良野町の区域内に存するもののうち、町にとって重要なものについて、その保存及び活用のため必要な措置を講じることにより町民の文化的向上に資する。						
概要	現在、町文化財として3か所の保存・管理を行っている 「憩いの楡」 西3線北29号 管理：町 「富原地区地神及び山の神」 東7線北24号 管理：富原住民会委託 「東中尋常高等小学校御真影奉置所」 東8線北18号 八幡神社境内 管理：町 平成22年度「憩いの楡」の遊歩道を整備 文化財保護委員会を設置し、文化財指定や管理についての会議を開催している。 町に37か所ある、埋蔵文化財包蔵地の管理を行っている			事業年度	開始	終了	差引
				事業費 (単位：千円)	昭和47年	継続	
検 証 内 容				評 価			
必要性	町にとって重要な文化財を保存・活用することは上富良野の歴史を知る上で必要である			達成度	効果度	総合評価	
有効性	重要な文化財を保存・活用する事で上富良野の歴史が学べ、有効性が高い			B	A	B	
費用対効果	最小限の費用で保存しており、費用効果は高い			(理由・説明) 現在、3か所の指定文化財があり、定期的に状態を確認している また、埋蔵文化財包蔵地37か所の管理を行う			
方向性	今後も継続する必要がある						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	定期的に埋蔵文化財包蔵地の表示板の点検が必要である						
	改 善 策						
埋蔵文化財包蔵地の表示板の定期点検により補修が必要な場合は、速やかに行う							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	7 文化財歴史の保存・活用	細項目	② 郷土館収蔵物データ化	推進目標	データ化する事によって、町民に対して収蔵物のデータを公開できる。また、合わせて収蔵物の情報が的確に管理できる		
目的	郷土館の収蔵物を紙台帳で保存しているため、収蔵物の情報が繁雑になっており、データ化し情報の一元化がする。また、収蔵物の陳列や分類ごとに保管し、整理・整頓を行う						
概要	郷土資料分類内訳台帳及び収蔵カードの情報の確認作業 郷土資料分類内訳台帳及び収蔵カードの情報のPCへのデータ入力作業 各収蔵庫に所蔵されている収蔵資料の整理・整頓・仕分け作業 郷土館資料分類台帳及び収蔵カードの入力内容の確認作業			事業年度	開始	終了	
					平成22年度	平成23年度	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					4, 324	4, 300	24
検 証 内 容				評 価			
必要性	郷土館の収蔵物をデータ化することにより、所蔵されている収蔵物の情報が容易にわかり、様々な事業などに活用できる			達成度	効果度	総合評価	
有効性	収蔵物データ化により、町民に対して郷土館の収蔵物の情報提供が行える。また、収蔵物の情報を児童生徒などの郷土学習に活用できる			B	A	B	
費用対効果	緊急雇用創出事業により、国の補助より実施 (10/10)			(理由・説明) 郷土館収蔵物のデータ化により、収蔵物管理が的確に行える			
方向性	今後も新規で寄付を受けた場合は、データ化を行っていく						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	収蔵量が予定(約 5,500 点⇒約 25,000 点)していたより多かったため郷土館の収蔵物中で一部未登録になっているものがある。また、重複している収蔵物もあるため、整理・整頓が必要である。						
	改 善 策						
	H23 年度において未登録の収蔵物のデータ化や重複している収蔵物を整理整頓する。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	8 スポーツ振興	細項目	① スポーツ団体（体協）補助	推進目標	上富良野町内のスポーツ団体を総括し、本町のスポーツ振興とスポーツ精神の普及を図り、町民の健康づくりと明るいまちづくりに寄与することを目標としている。		
目的	上富良野町のスポーツ団体の組織運営や研修等を円滑に推進し、町のスポーツ競技力向上や発展を図りながら、スポーツ振興を図ることを目的とする。						
概要	各加盟団体の事業に関して協力、援助を行い、北海道体育協会、道北圏広域スポーツセンター協議会との連絡調整を行なっている。 町内のスポーツ指導者との懇談会を開催し、スポーツ指導者の育成に努めている。 加盟団体 19団体 会員数 1,754名			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				620	620	0	
検 証 内 容				評 価			
必要性	町内のスポーツ団体を総括し、指導者の育成、加盟団体の事業に関する協力を行なうなどの活動をしており、今後もその必要性は大きい。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	町のスポーツ発展に効果は大である。			B	B	B	
費用対効果	町からの補助金と自主事業収入で運営を行なっており、加盟団体への補助、スポーツ教室の開催の支援など、限られた予算の中での効果は大きい。			(理由・説明) 町のスポーツ競技力向上や発展を図りながら、スポーツ振興を推進している。			
方向性	町のスポーツ振興への効果が大きいと、今後も支援（補助）を行なっていく						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	スポーツ指導者の育成・発掘への支援。 団体数、会員数が毎年減少しているため、団体数、会員の拡大を図る。						
	改 善 策 指導者の育成に関して、各加盟団体への協力、助成（研修会、講習会及び資格取得等）を行っていくことが必要である。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	8 スポーツ振興	細項目	② 各種スポーツ大会参加補助				
目的	スポーツ振興法の趣旨にのっとり、スポーツ団体及び個人のスポーツ活動を助長するための助成に関して必要な事項を定めることにより本町におけるスポーツの振興に資することを目的とする。			推進目標	本補助事業により、本町のスポーツ大会の支援及び選手派遣助成を行なう。		
概要	上富良野町スポーツ大会選手派遣事業 【平成22年度実績】 195,000円（補助件数 団体1件 個人31件） スポーツ大会補助 0件			事業年度	開始	終了	
						継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				195	195	0	
検証内容				評価			
必要性	青少年のスポーツ活動、大会選手派遣において、今後も補助は必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	青少年のスポーツ大会参加への有効性は大きいと思われる。			B	B	B	
費用対効果	各スポーツ団体への費用対効果は大である。			(理由・説明) 団体及び個人のスポーツ活動を助長するための助成であり効果は大と考える。			
方向性	今後も支援を続けていく。						
今後の取組み	今後の課題						
	青少年スポーツ振興のための指導者の養成						
	改善策						
	各スポーツ団体と指導者養成などの協議を行い、今後も町の青少年スポーツ振興のために支援を継続していくが、教育長から直接選手に助成金を渡し激励できるよう検討する。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	8 スポーツ振興	細項目	③ スポーツ教室の開催	推進目標	町民の健康増進、スポーツ活動の普及及びスポーツ競技力の向上を目標とする。		
目的	各世代に応じたスポーツ教室を開催し、スポーツ活動の推進、競技力向上を図る。						
概要	スポーツ教室を開催することにより、愛好者の拡大や初心者育成を図ることや、競技者間の親睦を深めるなどの効果がある。 【平成22年度実績】 初心者テニス教室 16名参加 インドアゴルフ教室 41名参加 初心者ゲートボール教室 43名参加 フロアーカーリング教室 83名参加			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	
					100	80	20
検証内容				評価			
必要性	町内各スポーツ団体が自主的に行なうものであり、今後も続けていく必要はある。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	スポーツ教室を通して、愛好者の拡大、町内スポーツの発展など有効性は大きい。			C	B	B	
費用対効果	本事業は総体事業の60%を補助しており、総体事業費から考慮すると費用対効果は大きいと思われる。			(理由・説明) 地域住民のスポーツ活動を積極的に進める			
方向性	今後も地域住民のスポーツ活動を積極的に進めるため、今後も補助を行なっていく。						
今後の取組み	今後の課題						
	教室を行なうスポーツ団体が固定化されている。						
	改善策						
体育協会を通じて、各種団体が本補助を活用し、積極的にスポーツ教室の開催を行なっていくよう支援する。							

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	8 スポーツ振興	細項目	④ スポーツ普及活動				
目的	生涯に渡り、スポーツを楽しむ環境づくりのために、町民ふれあいスポーツ大会の実施や体育指導委員活動での直接指導を行い、生涯スポーツ普及活動を推進する。			推進目標	生涯に渡り、スポーツをすることのできる環境づくり（各種大会、教室）を進めていく。		
概要	体育指導委員活動としては、年6回以上の会議の開催や町民に対して直接スポーツ指導や町民のためのニュースポーツの普及・研究などの活動を行っている。また、町民ふれあいスポーツ大会の実施などにより、町民が気軽に楽しめる生涯スポーツの実現を目指す活動を行ってきた。 町民ふれあいスポーツ大会実行委員会負担金 400,000円			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	2,207	2,109	98
検証内容				評価			
必要性	町民に直接スポーツ指導、スポーツ関連事業の企画・立案など、今後もその必要性は大いにある。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	ニュースポーツを主としたスポーツ大会実施など、町民が気軽に参加できる大会の実施など、体育指導委員やふれあいスポーツ大会などの有効性は大きい。			B	B	B	
費用対効果	体育指導委員としては、報酬・各種会議の費用弁償の支出が主であり、ふれあいスポーツ大会などは関係する競技団体の協力、参加費の徴収で町費の縮減に努めていることなど、現予算での費用対効果は大きいと思われる。			(理由・説明) ニュースポーツを主としたスポーツ大会実施など、町民が気軽に参加できる大会などを実施し、スポーツ普及活動を図る。			
方向性	今後も社会的信望があり、スポーツに関する深い関心と理解を持ち、熱意と能力を持つ者の中から、体育指導委員を委嘱するものとする。 今後もふれあいスポーツ大会実行委員会で町民のためのスポーツ大会を実施していく。						
今後の取組み	今後の課題						
	ニュースポーツの研究、企画など今後の新しい取り組みが必要になってくる。 町民ふれあいスポーツ大会について、体育指導委員や各スポーツ団体との連携（大会準備、運営）が必要。						
	改善策						
各種研修会や講習会などに参加し、体育指導委員のスポーツに関する研鑽やニュースポーツの普及を行っていく。							

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	9 社会教育施設の管理	細項目	① 各公民館分館管理運営	推進目標	地域住民の活動拠点をととして各分館を整備し、生涯学習を推進する。		
目的	社会教育法に基づき、一定区域内の住民を対象とし、生活にかかる教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上と、健康増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。						
概要	1. 公民館分館の管理運営及び施設管理 (11 分館 4,419 千円) 2. 公民館各分館活動事業 (11 分館 1,151 千円)			事業年度	開始	終了	
					昭和 48 年	継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					5,615	5,570	45
検 証 内 容				評 価			
必要性	地域住民の生涯学習の推進と地域コミュニティの持続のためには必要不可欠である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	地域活動の拠点として施設を利用するとともに、住民相互の親睦・交流と生涯学習の推進に大きな効果が得られている。			A	B	B	
費用対効果	町からの委託契約及び補助金等と住民会負担金等で管理運営されている。地域住民活動の効果は大である。			(理由・説明) 地域の住民による分館活動に大きく寄与しており、今後も継続していくことが必要			
方向性	地域の住民による分館活動に大きく寄与しており、今後も継続していくことが必要						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	各分館の施設管理について、委託契約と施設管理補助に分かれている各施設ともに過去の経過があり、今日を迎えているが結果として地域における住民負担に格差が生じていることから是正が必要である。 各分館のトイレ環境に差(和式又は洋式)が生じているため、改善が必要である。						
	改 善 策						
	各分館の施設維持管理について、維持管理の方向性を検証し住民負担に格差が生じないように検討を進める。 各分館のトイレ環境を改善する。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	9 社会教育施設の管理	細項目	② 公民館暖房施設改修	推進目標	適切な温度管理ができ効率的な暖房機器管理ができるようにする		
目的	公民館の暖房設備を改修し、適切な暖房管理ができるよう改修する						
概要	公民館の暖房施設改修 暖房設備の維持費の削減するため、全館ボイラー式暖房から FF 式ストーブによる暖房へ変更 温度管理を事務所で運転制御を集中管理できる設備を設置 ストーブ 26 台 運転制御管理機器一式 地下タンクを廃止し、灯油タンク 900ℓ×2 台設置			事業年度	開始	終了	
					平成 22 年度	平成 22 年度	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
			21,315	21,315	0		
検 証 内 容				評 価			
必要性	ボイラーの老朽化により、適切な温度管理をするため、個別暖房に変更する必要がある			達成度	効果度	総合評価	
有効性	個別暖房方式により、効率的な暖房管理ができる			A	A	A	
費用対効果	ボイラー式暖房から FF 式ストーブへの暖房機器変更により、維持管理費が削減できた			(理由・説明) 個別暖房方式導入により、維持経費が削減できた			
方向性	今後も継続して暖房機器を管理する。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	定期的に暖房機器の清掃を行うなどの適切な管理が必要である。						
	改 善 策						
	定期的に暖房機器の保守点検を、実施し部屋の使用状況や室温・外気温などを加味した、適切な温度管理を行う。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	9 社会教育施設の管理	細項目	③ 公民館管理運営	推進目標	文化団体や教育団体などの団体が円滑に利用できるよう管理運営にする		
目的	実際生活に即する教育、学術および文化に関する各種の事業を円滑に行えるよう施設運営を図る						
概要	文化団体や教育団体など町民の教育、学術および文化に関する各種の事業実施に伴う公民館の運営 定期利用団体 32 団体 (H21 30 団体) 延べ利用者数 29,184 人 (H21 26,266 人) 延べ利用件数 1,677 件 (H21 1,592 件) 利用料 1,189,600 円 (H21 1,193,005 円) H22 年度 公民館大ホール机 (50 台) を更新			事業年度	開始	終了	
					昭和46年	継続	
				事業費 (単位:千円)	予算額	決算額	差引
					12,431	11,888	543
検証内容				評価			
必要性	住民会、文化団体や教育団体など多くの町民が利用しており、必要性は高い			達成度	効果度	総合評価	
有効性	文化団体や教育団体など多くの町民の活動の場、地域の会館や避難所の役割もあり、施設の有効性は高い			B	B	B	
費用対効果	老朽化で施設の維持経費が年々増加しているが、利用者・利用料とも伸びており、また、地域の会館や避難所の役割もあり、費用対効果は高い			(理由・説明) 多くの住民や文化・教育団体の利用があり、利用率は高い。より利用しやすい環境の整備を図る			
方向性	今後も継続して適切な管理が必要である						
今後の取組み	今後の課題						
	・施設の老朽化 (S46 建設) のため、適宜補修を行う必要がある。						
	改善策						
	・計画的に施設の維持補修を行う						

評価基準(達成度・効果度) A:実践が進み成果を上げている B:実践が進んでいる C:実践に努めている D:努力を要する
 評価基準(総合評価) A:維持・拡大 B:工夫・改善 C:縮小 D:整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	9 社会教育施設の管理	細項目	④ 社会教育総合センター管理運営	推進目標	上富良野町の社会教育の拠点として誰もが使いやすい施設の維持管理に努めていく。		
目的	町民の社会教育活動の拠点として、適切に維持管理を行う。						
概要	センターの維持管理（警備、清掃） センターの施設修繕、敷地内緑地の維持管理、整備			事業年度	開始	終了	
						継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
					23,093	22,665	428
検 証 内 容				評 価			
必要性	適切な施設の維持管理は必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	建設後20年が経過しているが、大規模な修繕はなく、概ね良好な状態になっている。			B	B	B	
費用対効果	大規模な修繕に対しては、計画性を持って行うなど、費用対効果を考えながら施設の維持管理を行っている。			(理由・説明) 町民の社会教育活動の拠点として、適切に維持管理を行なう			
方向性	今後も年次計画に基づき、適時に施設の修理、補修など維持管理を行っていく。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	施設建設後、施設の経年による老朽化、近年の社会情勢の変化によるユニバーサル・デザインへの対応など、リニューアルが必要になってきている。						
	改 善 策						
	施設を利用する誰もが使いやすく、利用しやすい施設とするために、各関係機関や団体などと協議を行い、年次計画に基づき施設のリニューアルを行っていく。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	9 社会教育施設の管理	細項目	⑤ B&Gプール管理運営	推進目標	B & G海洋センターの利用により、町民が水に親しみ慣れ、水中のスポーツレクリエーション振興を推進する。		
目的	B & G財団から譲渡された海洋センターを利用して、町民が水に親しみ慣れることを目的とし、そのために適切な施設管理を行っていく。						
概要	【平成22年度実績】 子ども水泳教室 8日間開催 延べ 155名 親子水泳教室 6日間開催 延べ 100名 B & G水泳検定 5回開催 延べ 166名参加 B & G水泳記録会 26名参加 B & G海洋センター管理委託料（監視・清掃他） 5,011,650円 需用費 4,062,593円（消301,851 燃1,106,600 光1,172,120 修1,482,022） 北海道B & G海洋センター連絡協議会負担金 30,000円 その他 213,091円			事業年度	開始	終了	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				9,413	9,318	95	
検証内容				評価			
必要性	町の水泳用プールとして、その必要性は大きい。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	水泳スポーツ少年団活動や水泳連盟など子どもの水泳教室など、水泳スポーツ振興に大きな役割を成している。			B	B	B	
費用対効果	本事業に関する費用対効果は大きいと思われる。			(理由・説明) 水泳スポーツ振興に大きな役割を成している			
方向性	今後も海洋センターの維持管理や水泳スポーツへの支援などを行っていく。また、B & G主催の会議、研修会などに参加していく。						
今後の取組み	今後の課題						
	水泳指導者（B & Gアクアインストラクター）の養成が急務になっている。（水泳教室の指導者、水泳検定員の高齢化）						
	改善策						
	指導者の育成について検討をすすめる。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する
 評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

平成22年度 上富良野町教育行政点検評価表

担当班名 社会教育班

評価項目	9 社会教育施設の管理	細項目	⑥ パークゴルフ場管理運営				
目的	ニュースポーツであるパークゴルフを町民への普及を図る。また、上富良野町パークゴルフ場の管理を指定管理者制度の導入により、町民が利用しやすい施設として管理を行なっていく。			推進目標	ニュースポーツとして、パークゴルフの普及を図り、もって町民の健康増進に寄与する。		
概要	【平成22年度実績】 指定管理者委託料 4,100,000 円 役務費 32,985 円 年間利用者数 28,572 人 (前年 30,543 人)			事業年度	開始	終了	
						継続	
				事業費 (単位：千円)	予算額	決算額	差引
				4,133	4,133	0	
検 証 内 容				評 価			
必要性	パークゴルフ愛好者が年々 減少傾向にはあるが 、施設の適切な維持管理は必要である。			達成度	効果度	総合評価	
有効性	パークゴルフ愛好者の施設として、その有効性は大きい。			B	A	B	
費用対効果	指定管理者制度の導入により、管理運営会社が適切な運営管理を行っていることなどから、その費用対効果は大きい。			(理由・説明) 今後も指定管理者制度により適切な施設の維持管理を行っていく			
方向性	今後も指定管理者制度により適切な施設の維持管理を行っていく。						
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	施設の経年劣化による維持修繕（年次計画の作成）。 協会など愛好者からの現コース内に9ホール増設の要望がある。						
	改 善 策						
	施設維持のために、今後は年次計画を作成して、施設の適切な維持管理に努めていく。 増設の要望に対して、コース内における安全性、国際 PG コース認定基準などから、現コース内に増設は困難であることを説明し理解を得た。利用者が増加し利用に支障が出る場合は、隣接地に増設を検討する。						

評価基準(達成度・効果度) A：実践が進み成果を上げている B：実践が進んでいる C：実践に努めている D：努力を要する

評価基準(総合評価) A：維持・拡大 B：工夫・改善 C：縮小 D：整理統合・廃止

IV 教育行政評価委員の開催等について

1 教育行政評価委員会

教育行政評価委員会は委員3名を委嘱し、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条第2項の規定により、教育行政評価委員会を8月31日に開催しました。

教育行政評価委員会では、事前に教育委員会から提出した資料(教育委員会の活動状況及び事務事業点検・評価項目19項目48細項目)について、事務局側から説明をしそれに対する教育行政評価委員側からの質問・意見項目を基に意見交換を行いました。

2 点検・評価報告書に基づいた意見

本件の「教育委員会点検・評価報告書」の作成に関しては、各委員から上富良野町教育行政執行方針に基づき、適切に整理区分し点検評価表としてまとめられており、平成22年度の事務事業については、当初の目標どおりに執行され、総体的に評価できると考えます。

(1) 教育委員会の活動状況

教育は、個人的な価値判断や特定の党派的影響力から中立性を確保し、一定した方針の下に安定性と継続性が求められておりまた、地域住民にとって身近で関心の高い行政分野であることから、専門家のみが担うのではなく、広く地域住民の意向を踏まえて行われることが必要とされています。

教育委員会は独立した行政機関として5名の教育委員の合議制により、基本施策を選定し、具体的な事務については教育長が事務局を指揮監督して執行運営されているところです。

教育委員会の活動状況は、教育行政が遅滞することのないよう、定期的かつ必要に応じて会議等が開かれ処理されていることがうかがえます。

また、各種行事等に参加するとともに、学校行事への出席や視察・訪問を行うなど学校教育活動の把握に努めている。さらに年間を通して研修会等に参加し教育委員としての研鑽にも努められていることから、適切に機能し、活動されていると考えます。

教育委員の学校訪問については、現場において生の声を聞くことは大変に重要なことであり、出された要望等に迅速に対応されることを期待しております。

(2) 学校教育について

町内の小中学校においては教育委員会の教育振興基本計画等に基づく指導により、教育目標・重点目標・研究主題・研究計画等の指針に則して積極的に学校経営を推進しており、併せて学校評価や外部評価を導入し、課題を明確にして、指導実践を行っ

ており、事業が有効に機能していると考えます。

平成22年度で終了した耐震化調査の結果、耐震基準を満たしていない学校については、教育委員会事務局より計画的に対応を図る旨説明を受けました、財政的には、大きな負担となるとは思いますが計画通りに実施されることと他の環境整備についても全体計画の中で、適切に事業が行われることを期待しております。

(3) 社会教育について

教育委員会の社会教育に求められるものは、個人の要求に応えることでなく、町全体として必要と考えられる学習内容に関する企画立案、各種団体育成である。

各種事業は、社会教育推進計画に基づき推進されており、適切に機能していると考えます。

平成19年度から子供たちの安全で安心な居場所づくりを、目的として実施されている放課後プラン事業については、子育てを支援する観点からも重要な事業だと考えます。

約20人の指導員の方がこの事業に携わっていると説明を受けました。親の就業に伴う低学年の安全で安心な居場所づくりの為また、地域との連携を図りながら事業を継続的に実施できるよう今まで以上に、指導員の確保対策を図られたい。

環境整備についても全体計画の中で、適切に事業が行われることを期待しております。

資料1

上富良野町教育委員会教育行政評価委員会要綱

(設置)

第1条 上富良野町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する行政評価の透明性を確保するとともに、簡素で効率的な教育行政の推進について、教育に関し学識を有する者の知見を活用するため、上富良野町教育委員会教育行政評価委員会（以下「委員会」という）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、教育委員会が実施した事務事業の点検及び評価について、教育委員会に意見を述べることを所掌事務とする。

(構成)

第3条 委員会は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育長が委嘱する3名の委員をもって構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度までとする。

(運営)

第5条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により定める。

3 委員会は、必要に応じて委員長が召集する。

4 委員会は、審議のために必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、教育委員会事務局が行う。

附 則

1 この要綱は平成21年4月1日から施行する。

2 最初の委員会は、第5条第3項の規定にかかわらず、教育長が召集する。

資料 2

教育行政評価委員会の構成

委員長 本 田 邦 光
副委員長 安 川 美音子
委 員 飯 村 明 史

社会教育委員の会議 委員長
町女性連絡協議会 前会長
町PTA連合会 会長

資料 3

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号）

最終改正：平成 19 年 6 月 27 日法律第 98 号

改正内容：平成 19 年 6 月 27 日法律第 98 号（平成 14 年法律第 63 号への改正）〔平成 20 年 4 月 1 日〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

資料4

平成22年度 教育行政執行方針

平成22年第1回定例町議会の開会にあたり、上富良野町教育委員会の教育行政の執行にかかわる主要な方針について申し述べ、町議会をはじめ町民の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

はじめに

激動の21世紀に入り、早くも10年目を迎えておりますが、老舗デパートの縮小・撤退や国内最大手の航空会社の経営危機などに代表される経済不況とそれにとまなう雇用不安、世界的な異常気象となかなか進まない温暖化対策など、生活に直結する不安感が世情の中に潜在化しつつある現状と考えます。

こうした不安定な状況の中でこそ、社会を支える基盤となる「人材の育成」が、より重要な課題であると捉えなければなりません。これからの教育において、教えられたり与えられたりすることを待っているような受身的な態度では、現状の打開は難しいものと考えます。自ら考え、主体的に行動し、創意工夫をもって積極的に課題解決に立ち向かう能動的な人材の育成が強く求められています。今こそ、このたくましく「生きる力」を、私達大人も含めて培っていかねばなりません。

このことを受け、教育委員会といたしましては、平成20年度に町の第5次総合計画に併せて策定した「教育振興基本計画」を基として、学校教育と社会教育両面からの計画・実践そしてその検証から改善へと向かうサイクルをより強化し、次代を切り拓く『人づくり』に取り組んでまいります。

平成18年の「教育基本法の改正」に伴い、学校教育では「生きる力」を継続して基調とする新しい学習指導要領が告示されました。小学校が平成23年度、中学校は平成24年度からの完全実施に向け、各教科・領域の新たな内容に対応する教材教具の整備や、小学校で新たに導入される「外国語活動」への体制づくりなど着々と進めてまいりましたが、今年度も継続して取り組み、円滑に新学習指導要領への移行を行ってまいります。

社会教育においては、「家庭や地域の教育力の向上」を図るとともに、「生きがいのある生活と社会参画をめざす地域づくり」を多彩なスポーツ・文化活動などを媒介に推進し、生き生きとした生涯学習の実現を目指してまいります。

この理念をもとに、町民の皆様のご理解とご支援をいただきながら「活力ある人づくり・まちづくり」に向けてなお一層の努力をすすめてまいります。

■ 学校教育の推進

学校教育においては、「新学習指導要領」ならびに「上富良野町教育振興基本計画」

における学校教育基本方針を念頭に置き、新学習指導要領への移行措置を円滑にすすめることと、さらなる「生きる力」の育成のために「確かな学力」と「豊かな心」、「たくましい体」の向上をめざしてまいります。

新学習指導要領の移行措置につきまして、今年度は小学校での「外国語活動」を町内全校で先行実施を行ってまいります。これは、昨年度に設置した「上富良野町外国語活動推進委員会」での研究・協議をもとに準備をすすめてきた結果・成果ともいえるものです。

また、中学校体育で平成24年度から実施となる「武道」についても、必要な用具などの調整・準備をすすめてまいります。

「確かな学力の向上」については、過去3回に渡って実施した全国統一学力・学習状況調査などの結果において、本町の子ども達は総じて全国平均に近い状況ではありますが、年度によつての平均値や、教科および設問の内容によつて差が大きくなる場合もあり、課題も少なくありません。

その課題の解決とさらなる向上のために、引き続き基礎基本の定着と、それを活用した思考力・読解力・表現力を向上させる取組をすすめてまいります。また、わかりやすい授業の構築や学習習慣・生活習慣の向上をめざし、学校・家庭・地域の協力連携をさらに深めてまいります。

そこで、各学校においては、児童生徒の実態を踏まえながら独自の「学力向上プラン」を作成し、指導の強化を図ることとなっております。また、全国学力学習状況調査について、文科省では今年度から一部抽出校のみの実施となりましたが、本町においては子ども達の状況を引き続き検証していく必要があると判断し、道教委との連携を図りながら、今年度も4月20日に町内全校で実施をしております。

「豊かな心の育成」につきましては、道徳の時間を要として「思いやる心」や「規範意識」「自他の命の尊重」など、本町の子ども達に育ってきている基本的な倫理観をさらに向上させてまいります。

そのために、道徳教材の整備や総合的な学習の時間も含めた多様な体験活動・課外活動の促進を図り、より多くの自然や人とのふれあいを深めて心の教育の推進に努めてまいります。

「たくましい体づくり」については、体力の強化ばかりではなく、健康への意識や安全への意識の醸成も図ってまいります。

そのために、保健・体育の授業の充実はもとより、家庭や地域と連携しながら「基本的な生活習慣」のさらなる定着を図る取組を推進するとともに、自主性・忍耐力・運動能力を高める少年団活動や部活動への支援にも努めてまいります。

そして、開かれた学校・信頼される学校づくりをめざすために、学校評議委員会を含め、家庭や地域の声を取り入れる外部アンケートの実施や学校関係者評価委員会を各校に設置するなど、多くの声を生かした学校評価の充実を図ってまいります。

児童・生徒の指導等につきましては、いじめや不登校・器物破損・暴力・薬物・携帯電話などによる問題行動が各地では依然としてあとをたたない社会状況にあります。本町においては、学校・家庭・地域の皆様の努力と連携により、それらの事例は比較的少なく安定した状況が続いています。

しかし、それぞれの課題となる要素は今の時代において、どこにでも存在していると考えておかなければなりません。そこで、各学校との連携を密にし、日常の教育活動において「子ども同士」「子どもと先生」の人間関係・信頼関係を醸成する指導の充実をすすめてまいります。

そのために、教職員の指導力・人間力を高める研修の促進を図るとともに、問題の早期発見・早期対応を含め、子ども達の目線に立った教育相談体制の充実に向け、上富良野中学校には引き続き「心の教育相談員」を配置し、その活用の促進を図ってまいります。また、必要に応じて学校教育アドバイザーを、学校ばかりでなく保護者・地域との教育相談にも対応させてまいります。

へき地・複式教育につきましては、地域の特色を生かし、個に応じた指導により、児童生徒の健全育成に効果をあげているところです。各地と同様、本町においても児童生徒の減少は続いており、大きな課題となっておりますが、小規模校ならではの特色ある教育を今後とも継続させ、充実を図ってまいります。

そのため、へき地・複式教育の研究を進めている「上川南部地区へき地複式研究連盟」への支援を行ってまいります。

また、江幌小学校においては、地域と一体となった特色ある教育を望む児童が、学区域を越えて就学できる「特認校」として、継続してその運営を推進するとともに、平成22年度で開校100周年を迎えることから、その記念行事を支援してまいります。

特別支援教育については、障がいのある子ども達ひとりひとりの教育的ニーズに対応した校内体制の整備をさらにすすめるとともに、その指導法の充実に努めてまいります。

そのため、個々のニーズに対応した人的支援が重要であることから、本年度も上富良野小学校と上富良野西小学校に「特別支援教育指導助手」を継続して配置し、指導体制の充実を図ってまいります。

また、「上富良野町特別支援教育連絡協議会」や「就学指導委員会」の活動を通して、関係者の連携や研修の機会を持ち、指導の充実と今後に向けた自立や進路・社会参加への支援を行ってまいります。

学校の危機管理については、学校の内外を問わず子どもを取り巻く悲惨な事件や不慮の事故などがあとを絶ちません。

本町においては、学校での日常の校内点検励行を促すとともに、情報交換の機能を密にするため事件・事故等発生時の対応及び連絡体制について関係機関と共通理解を

図って取り組んでいるところです。

住民会・町内会による登下校時の「見守りパトロール」をはじめ、「上富良野の青少年健全育成をすすめる会」や「地域生活安全協会」などとの連携により、地域総ぐるみでの協力体制を今後とも継続・強化し、子ども達にかかわる安全確保、事件・事故発生の予防に努めてまいります。

また、一刻をあらそう不測の事態での救命活動に備え、「自動体外式除細動器（AED）」を各学校に設置し、消防署との連携・協力を得ながら活用の講習会等を行うなど、普及・促進を図ってまいります。

教育環境の整備につきましては、国の「スクールニューディール構想推進事業」を受け、各学校や公共施設のテレビデジタル化と校務用コンピューターの整備を行ってまいりましたが、今年度は西小学校のコンピューター整備・更新などを推進してまいります。

また、江幌小学校の校舎及び講堂の防水工事、東中小学校及び東中中学校の校舎耐震診断も実施の計画となっており、安全で安心な学校環境整備を図るとともに、教材備品の拡充を図るなど学習環境整備についても計画的にすすめてまいります。

学校給食につきましては、昨年度から「富良野広域連合」による運営がなされておりますが、「自賄い方式」は継続して行っていることから、従来どおり原材料などができる限り地場産品を取り入れ、施設設備の衛生管理・安全管理に努め、「安心」で「おいしい」給食の提供に今後とも努めてまいります。

また、食育の一環として行っている「お弁当持参の日」は、家庭の協力・家庭の工夫など、親子の絆づくりにつながるものとして今後も継続してまいります。

さらに、栄養士による学校訪問も継続して実施し、食事の意味・栄養バランスの大切さ・食事のマナーなどの指導を、学校での学級指導などとの連携を得ながら充実を図ってまいります。

国際理解教育については、現在、友好都市でありますカナダ・アルバータ州カムローズ市から英語指導助手を迎えて、学校教育・社会教育の両面で小中学校の授業やサークル活動を通して国際理解教育の推進を図るとともに、上富良野町とカムローズ市との交流発展に努めているところであります。

さらに、本年度から小学校5・6年生で先行実施とする「外国語活動」にも有効な活用・活躍の場を計画しているところでもあります。

また、幼児も含めて町民の皆様にも国際理解の輪を広げていただけるよう、幼稚園・保育所への訪問や英会話教室などを通してその推進に努めてまいります。

道立上富良野高等学校の振興については、生徒数の確保が年々難しく、その存続を危ぶむ声が多方面から聞こえてくる状況でありましたが、本年度においては高校の努力

はもとより、「上富良野高校教育振興会」「上富良野高校サポーターズクラブ」や「上富良野高校野球部を応援する会」など地元関係各位の様々な努力をいただき、出願者数が定員をオーバーする結果となりました。

地域に根ざした高校の存在は、子ども達や「町」にとっても大きな影響力を持っています。今後ともこの望ましい傾向を継続していくため、地域の応援を大きな追い風として上富良野高校がさらなる飛躍を遂げるよう期待するところであります。

本町としても、資格取得の受験料補助など従来の支援はもとより、新たな支援の手立てを模索しながら上富良野高校の振興・発展を目指してまいります。

■ 社会教育の推進

社会教育の推進につきましては、公民館や図書館・スポーツ施設などの社会教育施設を活用しながら、町民ひとりひとりが生涯にわたって自主的に学ぶ機会を提供することにより、社会教育基本方針に定める「豊かな心と健やかな体を育み、うるおいある地域づくりをめざす生涯学習の推進」の実現に向けて、社会教育行政をすすめてまいります。

昨年度から施行された第7次社会教育中期計画により、家庭・学校・地域社会のそれぞれが持つ教育機能の充実や連携・融合を図る実践に努め、社会教育推進目標に掲げられている具体的方策の実施・実現をすすめてまいります。

家庭教育につきましては、家庭は、子ども達が生活に必要な基本的習慣を身に付け、調和のとれた心身を育む場であり、教育の原点であります。

親子の絆を深め健やかな子育てをめざし、家庭教育に関する学習機会や情報提供の充実を図り、家庭教育学級や子育てサークルなどの活動を支援してまいります。また、毎月第3日曜日の「道民家庭の日」の啓発や普及促進を図り、家庭教育力の向上に努めてまいります。

青少年教育についてであります。次代を担う青少年のスポーツや文化活動の推進を図るため、子ども会やスポーツ少年団、青少年団体協議会などの自主活動を尊重し、引き続き支援・協力を行ってまいります。

今年度は、友好都市であるカナダのカムローズ市へ中学・高校生を派遣し研修と見聞を広め、国際交流を目的とした青少年海外派遣交流事業をすすめてまいります。さらに、8月に本町で開催予定の「全道青年大会」文化交流についても支援をすすめてまいります。

また、学校の諸活動を支援する地域のボランティア活動となる「学校支援地域本部事業」を推進するとともに、青少年を対象に芸術鑑賞、各種学習活動を通じ、子ども達の生きる力と豊かな心の育成に努めてまいります。

次に、放課後プラン事業につきましては、今年度は実施体制や登録料など一部見直しを図り、保護者・学校・地域などに理解を得ながら、子ども達の放課後のより安全で安心な居場所づくり事業として運営してまいります。

地域の方々のさらなるご協力を得ながら、学校および保健福祉部局と連携をすすめ、上富良野の子ども達を健全に守り育てる事業として継続してまいります。

また、事業運営にあたっては、日々子ども達のお世話をいただく指導員の方々の協力が、なくてはならないものであります。地域ボランティアを含めて、協力していただける方の確保に今後も努めてまいります。

成人・高齢者教育についてであります。成人の学習活動については、自主的なサークル活動への支援と、各種学習機会や女性学級の開設などに取り組んでまいります。

引き続き、高齢者を対象に「いしづえ大学」を開設し、健康で明るい生活を築くための学ぶ機会を提供するとともに、生きがいくくりと社会参加の促進を図ってまいります。

また、大学生が自主的に運営する自治会活動の支援をしてまいります。

さらに、成人者や高齢者の方々が培った知識や技能を、各種の学習活動・体験活動に生かし伝えていただくなど、積極的な関わりの中で、学びあい支えあう人づくり・まちづくりをすすめてまいります。

文化芸術の振興につきましては、人々の心に安らぎと潤いをもたらすことから、美術展覧会や音楽・舞台芸術の公演などを文化団体や愛好者と連携し、優れた芸術・芸能・文化に触れる機会の充実を図ってまいります。

また、町民の皆様が心の豊かさを求めて日常的に練習を行っている文化芸術活動の発表の場として、子どもから大人までを対象とした総合文化祭を開催し、自主的な発表の機会を支援するとともに、地域文化の継承と発展をめざしてまいります。

今年度は、上川管内道民芸術祭（兼）富良野地区文化団体交流会が本町で開催されますので、これを支援してまいります。

図書館の運営については、蔵書検索システムを活用し、道立図書館や近隣図書館などとの連携を深めるとともに、利用者の利便性の向上を図ってまいります。

また、昨年度実施した町内小・中学校の学校図書電算化による蔵書の共有化により、学校間や図書館との有効活用を図ってまいります。

子ども達の読書への関心を高めるため、児童書の充実を図るとともに、本とふれあう機会の拡大をめざし、乳児には絵本に触れるきっかけづくりとしてのブックスタートや各小学校等への移動図書活動を継続してまいります。また、読み聞かせ活動など、本を活かした学習活動も引き続き行ってまいります。

これからの図書館運営につきましては、様々な機会を通じて広く皆様のご意見・ご

希望を聞きながら、「町民に親しまれる図書館」をめざして取り組んでまいります。

郷土館については、今年度は、国の緊急雇用創出事業により、郷土館収蔵物を分類・整理し収蔵物情報をデータ化して、町民の皆様の郷土学習などに、より活用しやすいものにしてまいります。さらに、町の文化財であります「憩いの楡」石碑への遊歩道を整備し見学者の安全を図るなど、環境整備の充実を推進してまいります。

また、今年度は「三浦綾子記念文学館」のご協力により、小説「泥流地帯」のもととなりました「大正15年十勝岳爆発」に関する取材資料などの特別展示会を開催いたします。

多くの町民の皆様にご観覧いただき、郷土の歴史についての造詣をさらに深めていただけるよう、郷土館のさらなる充実に努めてまいります。

スポーツ振興についてであります。町民の皆様の健康づくりをめざし、各種スポーツ大会の開催など参加機会の拡大を図り、生涯にわたってスポーツに親しめる取組を推進してまいります。

広く町民の間にスポーツが普及し、町民の健康増進と体力向上によって町民生活が明るく豊かになることをめざすために、豊富な知識を持った各種スポーツ指導者の養成に努めてまいります。

今年度は「B&G海洋センター北海道大会・水泳の部」を、本町で開催してまいります。

社会教育施設については、今年度は、公民館暖房設備改修、スキーリフト修理、B&G海洋センタープール濾過装置修理等を行い施設の適切な維持を図ってまいります。

また、社会教育施設につきましては、それぞれの施設は建設から年数を経過していることから、適時に補修や修繕を行い施設の適切な維持管理に努めてまいります。

■ おわりに

以上、平成22年度の教育行政の執行に関する主要な方針について申し上げましたが、本町の教育・文化・スポーツの振興と生涯学習社会の構築に向けて最善の努力を傾けてまいります。

議員並びに町民皆様のご支援とご協力をお願い申し上げまして、教育行政執行方針といたします。

平成22年3月8日

上富良野町教育委員会